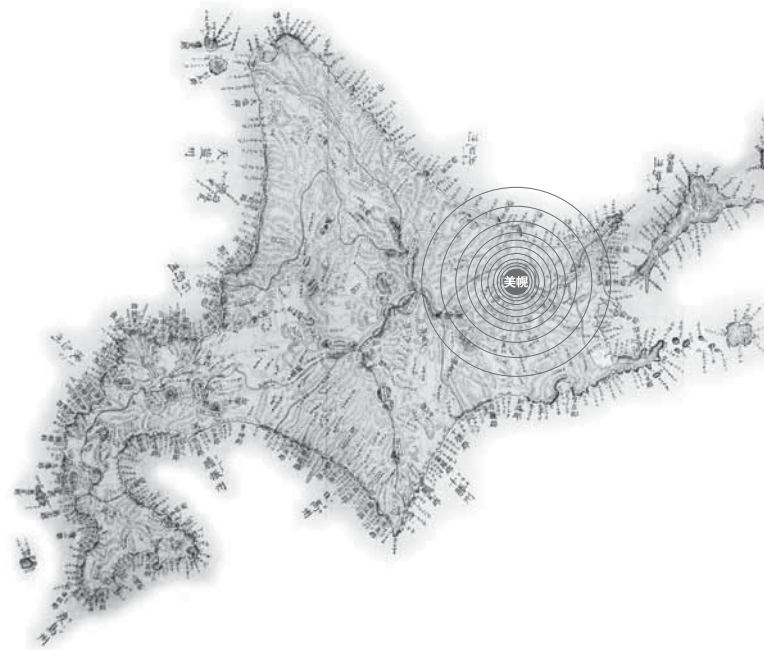


中級

# アイヌ語

美幌



財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構



## はじめに

この本は、アイヌ語の初歩を学んだ人が、文法的に少し踏み込んだ内容を学ぶための教科書として作りました。ただし、この本から学習を始めたとしても問題の無いように、なるべく平易な説明をこころがけました。

文法の学習にくわえ、「なぞなぞ」や「となえごと」などの伝統的な言葉あそびや、よく知られた童謡のアイヌ語訳を掲載して、楽しみながら単語や文章を身につけられるようにしています。

本文に掲載した例文は、実際にアイヌ語の語り手が話したのも一部にありますが、大部分は新しく作ったものです。各ページで説明したい内容を盛り込むために、短く単純な言いまわしにしてあります。

アイヌ語の発音は日本語と異なるところがあり、特に難しい所は、お手本となる音声を聞きながら学習することが欠かせません。この本を教室等で利用するほか、家庭でも利用できるように例文や単語、言葉あそび、歌などを発音した音声資料をつくりました。収録に協力してくださったのは、ふだんは日本語で生活し、アイヌ語は学習によって身につけた人々です。一般に言葉を学ぶときには、生まれつきその言葉を使っている人から教わるのがよいとされており、これはアイヌ語においても同じことがいえます。しかし、家庭のなかでアイヌ語の音に触れる機会が少ない中で、最初の手がかりになればという考えから音声資料を作成しました。

この本を通じてアイヌ語に関心を持たれた方は、これまでに出版されたより専門的な解説書や視聴覚教材を通じて、自然なアイヌ語の文に触れることをおすすめします。巻末に、この本を作る上で参考にした本をまとめていますので、そちらも参照してください。

### 【執筆・編集担当（五十音順）】

北原次郎太、楠本克子、高橋規、高橋靖以、八谷麻衣

### 【音声収録（五十音順）】

小笠原小夜、加納ルミ子、川村このみ、木村君由美、豊川容子、八谷麻衣、村上恵、山本りえ

この本を作る過程で多くの方にご指導を頂きました。記してお礼申し上げます。



## 凡例

- ・アイヌ語の表記は『アコロイタク』(北海道ウタリ協会 1994)に概ね準じた。例文は全てカタカナ・ローマ字の併記とした。解説中に同じ単語が繰り返し出てくる場合は必要に応じてローマ字を併記し、他はカタカナのみとした。なお、カタカナは音声の連続や変化を反映させて、実際に発音される音声を理解しやすいように、ローマ字は辞書検索がしやすいように個々の語を境界ごとに区切って示した。
- ・例文を作る際、アイヌ語として一般によく知られた言葉でも方言によっては該当する語彙が確認できないことがあった。その場合はやむを得ず他方言を参照して想定される語を用いるか、造語で対処し、斜体で示した。
- ・例文に地名を使用した箇所がある。アイヌ語地名には、1つの地名について語源の解釈とそこから想定される形が複数あることが少なくない。このため、例文中では現行の漢字による地名表記をそのまま用いた。その他、海外の地名、日本語の語彙についても同様に、日本社会で一般に用いられている形をそのまま用いた。
- ・アクセントを説明する際、アクセント位置を ■ で示した。
- ・各課の例文で、その課の学習項目に該当する箇所は太字・下線で示した。
- ・例文のほか、口承文学や学習用に考案した歌を掲載している。これらについては千歳方言に限定せず、様々な方言を取りまぜて構成した。
- ・例文に逐語訳をつける代わりに、『びほろのアイヌご』、『初級 アイヌ語—美幌—』をふくめた全出現語彙の訳、品詞を表示したリストを作成し、本書巻末に掲載した。

中級 アイヌ語テキスト 千歳方言 目次

はじめに .....	3
凡例 .....	5
音節表 .....	8
① 教室で使えるアイヌ語～先生がくる前に～ .....	10
② 発音と表記の復習 .....	12
③ 発音と表記の復習 2 .....	14
④ 音が替わる、音がつながる .....	16
⑤ 単語を覚えよう 1 .....	18
⑥ 言葉あそびを覚えよう 1 美幌地方のなぞなぞ .....	19
⑦ アクセント .....	20
⑧ 単語を覚えよう 2 .....	22
⑨ 言葉あそびで覚えよう 2 十勝地方のとなえごと .....	23
⑩ 「～しない」否定文 .....	24
⑪ 「～ができない」「～がわからない」否定動詞による否定文 .....	26
⑫ ルウエ・シリ・ハウエ 形式名詞の使い分け .....	28
⑬ 単語を覚えよう 3 .....	30
⑭ 言葉あそびで覚えよう 3 美幌地方の言葉あそび .....	31
⑮ 「私は～」「君は～」1人称・2人称単数主格 .....	32
⑯ 「私たちは～」「君たちは～」1人称・2人称複数主格 .....	34
⑰ 「いっしょに～する」包括的 1 人称複数主格 .....	36
⑱ 「私に～」「君に～」1人称・2人称目的格 .....	38
⑲ 単語を覚えよう 4 .....	40
⑳ 言葉あそびで覚えよう 4 人称接辞の歌 .....	41
㉑ 「私が君に～」「君が私に～」人称の組み合わせ .....	42
㉒ 「私も」「君も」を強調する人称代名詞 .....	44
㉓ 「～なさいましたか?」「～なさって下さい」尊敬の表現 .....	46

24	「きれいに」「ゆっくり」「みじかく」副詞	48
25	単語を覚えよう 5	50
26	言葉あそびで覚えよう 5 美幌地方のなぞなぞ	51
27	人称接辞のまとめ	52
28	「あの」「この」「2つの」「3つの」いろいろな連体詞	54
29	「～しなさい」「～するな」命令・禁止	56
30	「大勢で～する」自動詞の単数・複数	58
31	「たくさん～する」他動詞の単数・複数	60
32	「～して」「～しながら」接続助詞 1	62
33	「～なので」「～したら」「～しても」接続助詞 2	64
34	「～まで」「～のように」「～なほど」接続助詞 3	66
35	「～に行く」場所の表現 1	68
36	「～に行く」場所の表現 2	70
37	「～の上を」「～の中に」場所に関わる動詞	72
38	「私のおじいさん」「私のおばあさん」親族名称	74
39	いろいろな動詞 自動詞・他動詞・複他動詞	76
40	「～へ」「～から」「～でもって」いろいろな格助詞	78
41	「～も」「～だけ」いろいろな副助詞	80
42	「～かい?」「～だよ」文の終わりにつく言葉	82
43	「～した」「～しすぎた」いろいろな助動詞	84
	単語リスト	87

## アイヌ語(北海道方言)の音節の一覧

### 【母音】

ア	イ	ウ	エ	オ
---	---	---	---	---

### 【子音+母音】

カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ		トウ	テ	ト
チャ	チ	チュ	チエ	チヨ
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
パ	ピ	プ	ペ	ポ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ		ユル	イエ	ヨ
ラ	リ		レ	ロ
ワ	ウイ		UE	ウオ

### 【母音+子音】

アク	イク	ウク	エク	オク
アシ	イシ	ウシ	エシ	オシ
アツ	イツ	ウツ	エツ	オツ
アン	イン	ウン	エン	オン
アプ	イプ	ウプ	エプ	オプ
アム	イム	ウム	エム	オム
アイ		ウイ	エイ	オイ
アラ	イリ	ウル	エレ	オロ
アウ	イウ		エウ	オウ

### 【子音(例としてカ行の音) +母音+子音】

カク	キク	クク	ケク	コク
カシ	キシ	クシ	ケシ	コシ
カッ	キッ	クッ	ケッ	コッ
カン	キン	クン	ケン	コン
カプ	キプ	クプ	ケプ	コプ
カム	キム	クム	ケム	コム
カイ		クイ	ケイ	コイ
カラ	キリ	クル	ケレ	コロ
カウ	キウ		ケウ	コウ



## アイヌ語(北海道方言)の音節の一覧

### 【母音】

a	i	u	e	o
---	---	---	---	---

### 【子音+母音】

ka	ki	ku	ke	ko
sa	si	su	se	so
ta		tu	te	to
ca	ci	cu	ce	co
na	ni	nu	ne	no
ha	hi	hu	he	ho
pa	pi	pu	pe	po
ma	mi	mu	me	mo
ya	yi	yu	ye	yo
ra	ri	ru	re	ro
wa	wi	wu	we	wo

### 【母音+子音】

ak	ik	uk	ek	ok
as	is	us	es	os
at	it	ut	et	ot
an	in	un	en	on
ap	ip	up	ep	op
am	im	um	em	om
ay		uy	ey	oy
ar	ir	ur	er	or
aw	iw		ew	ow

### 【子音(例としてK) +母音+子音】

kak	kik	kuk	kek	kok
kas	kis	kus	kes	kos
kat	kit	kut	ket	kot
kan	kin	kun	ken	kon
kap	kip	kup	kep	kop
kam	kim	kum	kem	kom
kay		kuy	key	koy
kar	kir	kur	ker	kor
kaw	kiw		kew	kow

## ステップ1 教室で使えるアイヌ語～先生がくる前に～

☆アイヌ語の表現をまるごと覚えて、使ってみましょう。

1. 先生 ナ エク カ オモ(ソモ) キルウエ ネ。  
先生 na ek ka omo (somo) ki ruwe ne.  
先生はまだ来ていません。
2. ナ オヌマンイペクエカ オモ(ソモ) キクス、クイペルスイ。  
na onumanipe ku=e ka omo (somo) ki kusu, ku=iperusuy.  
まだ晩ごはんを食べてないから、お腹がすいたなあ。
3. チョコレート クコンルウエ ネ。  
チョコレート ku=kor ruwe ne.  
私はチョコレートを持ってるんだ。
4. シネパウネレ アン。  
sinep un=ere an.  
ひとつ私たちにちょうだい。
5. ピリカワ。エ アン。  
pirka wa. e an.  
いいよ。食べな。

6. イヤイライケレ (男性) / ヒンナ (女性)。エエンコレプケラアン。

iyayraykere / hinna. een=kore p keraan.

ありがと。君がくれたやつ、おいしいよ。

7. 先生 エク コトム フマシ。

先生 ek kotom humas.

先生が来たみたいだよ。

8. ホクレ ホクレ。先生 エク エンコタ アネ ロク。

hokure hokure. 先生 ek enkota an=e rok.

さあ、はやく。先生が来る前に食べよう。

☆「ごはんを食べていないからお腹がすく」という理由を表す表現や、「君がくれた」のような誰が誰にといった表現は、この中級編で詳しく学びます。

## ステップ2 発音と表記の復習

### アイヌ語の音

アイヌ語の音は5つの母音 (a, i, u, e, o) と11の子音 (c, h, k, m, n, p, r, s, t, w, y) の組み合わせでできています。これらの音を表記するにはカタカナまたはローマ字を使います。

### 音の組合せ

音の組み合わせには、アイヌ語としての決まりがあります。一番基本的な組み合わせ方として次の4つがあります。アイヌ語話者が、言葉をゆっくり区切って言うと、自然にこの組み合わせの単位で切れます。

①母音	②子音+母音	③母音+子音	④子音+母音+子音
例： a	sa	ak	sak
「座る」	「姉」	「弟」	「夏」

このような音の組合せの単位を「音節」と呼びます。①②のように母音で終わるものを「開音節」、③④のように子音で終わるものを「閉音節」と呼びます。日本語はほとんどが開音節で構成されていて、ひらがなやカタカナも、開音節を書き表すように作られています。ですから、閉音節を書き表すには、ローマ字を使ったり、カタカナを工夫して使う方法が試みられてきました。

### 表記法

音節のタイプ別に表記法を見ていきます。

①「母音」は日本語の五十音のア行で書き表します。

☆母音は日本語とほとんど同じですが、ウの発音は少し唇を丸め、舌を奥に引いた状態で発音します。オに近い音で、しばしば聞きわけが難しくなります。地域や個人によっても多少発音がかわります。

② 「子音+母音」は日本語の五十音と同じように書き表します。ただし、次の点では少し違います。

☆カ行、タ行、パ行は、有声音（濁音）で読んでもかまいません。したがって、この本ではガ行、ダ行、バ行は使っていません。どちらかと言えば、単語のはじまりは無声音（清音）になりやすく、単語の中、とくに n や m の後に有声音になりやすいという傾向があります。

☆サ行はシャ行で読んでもかまいません。たとえば「スサム（ししゃも）」と書いて「シュシャム」と読んでもかまいません。この本では「イシャ（医者）」は「イサ」と書いています。シのローマ字表記は「si」です。

☆タ行は「タ・ー・トゥ・テ・ト」です。「テイ」の音はアイヌ語では使いません。「ツ」は使わず、かわりに「トゥ」を使います。

☆チャ行のローマ字表記は ca、ci、cu、ce、co です。

☆ヤ行は「ヤ・ユ・イエ・ヨ」です。イエは、口をイの形にして、エを発音するような音です。「イエン」のイエのように一息に言います。

☆ワ行は「ワ、ウイ、ウエ、ウォ」です。ウエは「ウェブ」のウエ、ウォは「ウォン」のウォのように発音します。

### ステップ3 発音と表記の復習2

閉音節（ステップ2の③「母音+子音」、④「子音+母音+子音」）の末尾の子音は、ローマ字では h、k、m、n、p、r、s、t、w、y の各1字のみで書きます。c は、母音の後ろには現れません。h が現れるのは樺太の言葉だけで、北海道では使いません。

カタカナでは小文字で表示します。

☆ k、m、p、s、t は小文字のク、ム、プ、シ、ツで書きます。

サク	サム※	サプ	サシ	サツ
sak	sam	sap	sas	sat
「夏」	「～のそば」	「～が下りる（複）」	「コンブ」	「～が乾く」

※ m の後に p が続くときは「ン」で書きます。

フムペ	→	フンペ	サムペ	→	サンペ
humpe			sampe		
「クジラ」			「心臓、心」		

このように「ン」で書いたとしても自然に m の音で発音されますし「ム」を使うとかえって不自然な発音になりやすいので、特別なルールを適用しています。

☆ h と r は、前の母音と対応するハ行、ラ行の小文字で書きます。

サハ	シヒ※	スフ	セヘ	ソホ
sah	sih	suh	seh	soh
「夏」	「目」	「茎」	「ベッド」	「セイウチ」

※ h は、ただ息を吐くだけの音です。前の母音を発音した口の形に影響されて同じ段のハ行音に近く聞こえます。ただし、i の後では s に近くなります。例えばシヒ (sih) はシシ (sis) に近く発音されます。

カラ	キリ	クル	ケレ	コロ
kar	kir	kur	ker	kor
「～が～を作る」	「髓」	「影」	「靴」	「～が～を持つ」

r の音は、アクセントをおかず、軽く舌先ではじくような発音です。前の母音が響いて、同じ段のラ行音に近く聞こえます。

☆ n、w、y は子音ですが、カタカナは大文字のまま表記します。

ラン	マウ	プイ
ran	maw	puy
「～が下りる」	「ハマナス」	「エゾノリュウキンカ」

この方法では、i や u の音との書き分けができません。このため、本書では採用していませんが w や y にあたる部分を小文字で表記する立場もあります。

マウ	プイ
maw	puy

☆子音の連続「- kk -、- tk -、- pp -、- ss -、- tp -、- tt -」は「ッ」で書きます。

ワッカ	ウツカ	チカッポ	アッサプ	アッパケ	トッタ
wakka	utka	cikappo	assap	atpake	totta
「水」	「浅瀬」	「小鳥」	「櫂」	「最初」	「大袋」

カタカナでは「ッ」ですが、ローマ字の表記を見ると全て違う音であることがわかります。同じような事は日本語の「しょっき(食器)」「かっぱ(河童)」「ぶっし(仏師)」などにも言えますが、日本語の習慣ではこういう音をすべて小さい「っ」で済ませてしまいますし、この本のアイヌ語表記もこれと同様にしています。

なお、音の違いをきちんと表現するという立場もあり、それに従うと上記の単語はこのように表記されています。

ワッカ	ウトカ	チカッポ	アッサプ	アッパケ	トッタ
wakka	utka	cikappo	assap	atpake	totta

## ステップ4 音が替わる、音がつながる

アイヌ語では、ひとつの単語の後ろの音と、次の単語の最初の音がつながった時に、音が替わることがあります。これは、口の動かし方の関係により自然に起こる変化で、意味は変わりません。ゆっくり言えば変化しないこともあります。

(例) mokor (眠る) + rusuy (～したい)  
⇒モコンルスイ mokon rusuy (眠りたい)

kor (～の) + totto (母親)  
⇒コットット kot totto (～の母親)

nankor (～だろう) + na (よ)  
⇒ナンコンナ nankon na (～だろうよ)

san (下る) + wa (～て)  
⇒サンマ san ma (下って)

isam (無い) + wa (～て)  
⇒イサムマ isam ma

pon (小さい) + sita (イヌ)  
⇒ポイシタ poy sita

このような音の交替はいろいろな場面で見られ方言による差もありますので、ひとつずつ事例を覚えていきましょう。



この本では、音が交替するときは、ローマ字で交替するまえのかたち（元の単語のかたち）を、カタカナで交替した後のかたち（変化して話されたかたち）で表記します。

クモコンルスイナ。

ku=mokor rusuy na.

私は眠たい。

閉音節の単語（子音で終わる単語）の後に、母音で始まる単語がくると、続けて発音されることがあります。

（例）チブ cip 舟 オロ or ～のところ エネ ene ～へ

⇒チボレネ（cip or ene）舟へ

サプ sap 下る アン an 私たちが アクス akusu ～して

⇒サパナクス（sap=an akusu）私たちが下って

この本では、音が続けて発音される時も、音が交替するときと同じように、ローマ字では交替するまえのかたち（元の単語のかたち）を、カタカナでは交替した後のかたち（変化して話されたかたち）で表記します。

（例）アイヌイタカニイタカンロク。

aynuitak ani itak=an rok.

アイヌ語で話そう。

## ステップ5 単語を覚えよう1

- |    |      |        |           |
|----|------|--------|-----------|
| 1  | コロ   | kor    | 「～が～を持つ」  |
| 2  | ヌカラ  | nukar  | 「～が～を見る」  |
| 3  | ヌ    | nu     | 「～が～を聞く」  |
| 4  | エ    | e      | 「～が～を食べる」 |
| 5  | ク    | ku     | 「～が～を飲む」  |
| 6  | ミ    | mi     | 「～が～を着る」  |
| 7  | マカ   | maka   | 「～が～を開ける」 |
| 8  | セシケ  | seske  | 「～が～を閉める」 |
| 9  | アウンケ | awunke | 「～が～を入れる」 |
| 10 | アシンケ | asinke | 「～が～を出す」  |

## ステップ6 言葉あそびを覚えよう1

美幌地方のなぞなぞ

- ① チセ オウカラリ ウノシパプネフネヤ?

cise oukarari unospa p nep ne ya?

家のまわりでお互いを追いかけるものは何ですか?

☆ヒント 家をぐるっとめぐるように立っている姿が追いかけてっこをしている様子に例えられています。

答えは 86 ページ

- ② オマナ オマナ アイネ ニトモシマフネフネヤ?

oman a oman a ayne ni tom osma p nep ne ya?

山に行って木にぶつかるものは何ですか?

☆ヒント 山で使う道具です。木にぶつけて使うものといえば…。

答えは 86 ページ

☆ここで紹介する謎々は「知里真志保ノート（北海道立文学館所蔵）」に基づくものです。ただし、一部の表現を改めました。

## ステップ7 アクセント

アイヌ語のアクセントには、大きく次の2つの決まりがあります（注意：美幌方言にはアクセントの区別はありませんが、以下の2つのきまりはほぼ当てはまります）。

①最初の音節が開音節のときは、最初の音節が低くて2番目の音節が高い（但し例外がある）。

例 パケ pake 「頭」 シタ sita 「イヌ」 ノヤ noya 「ヨモギ」

②最初の音節が閉音節のときは、最初の音節が高い。

例 アイヌ aynu 「人間、男性」 ランコ ranko 「カツラ」  
スンク sunku 「エゾマツ」

以上のことに注意をしながら、次の言葉をアクセントに注意して発音してみましょう。

テクサム teksam 「～のそば」 と テクンペ tekunpe 「手甲」

ホシキ hoski 「先に」 と オシピ osipi 「～が帰る」

アプカ apka 「オスのシカ」 と アプンノ apunno 「静かに」

キムタ kim ta 「山に、山へ」 と キムンカムイ kimunkamuy 「ヒグマ」

サラキ sarki 「かや、よし」 と サランペ sarampe 「絹布」

ピリカ pirka 「～が良い」 と ピリヒ pirihi 「～の傷」

トゥルパ turpa 「～が～を伸ばす」 と トウルシ turus 「～が垢じみている」

☆アクセントには、例外があります。

以下の単語は最初の音節が開音節で、アクセントが最初の音節にあるものです（注意：美幌方言では、これらの例外単語についても2番目の音節にアクセントがおかれることがあります）。

フレ	hure	「赤い」
フチ	huci	「おばあさん」
トノト	tonoto	「酒」
サコロペ	sakorpe	「英雄叙事詩」
シノ	sino	「本当に」
ウセイ	usey	「湯」
ハポ	hapo	「お母さん」
ウナ	una	「灰」
コレ	kore	「～が～に～を与える」
クレ	kure	「～が～に～を飲ませる」
エレ	ere	「～が～に～を食べさせる」

## ステップ8 単語を覚えよう2

- |    |      |       |         |
|----|------|-------|---------|
| 1  | シノッ  | sinot | 「～が遊ぶ」  |
| 2  | マ    | ma    | 「～が泳ぐ」  |
| 3  | アプカシ | apkas | 「～が歩く」  |
| 4  | オユプ  | oyupu | 「～が走る」  |
| 5  | モコロ  | mokor | 「～が寝る」  |
| 6  | モシ   | mos   | 「～が起きる」 |
| 7  | マッケ  | makke | 「～が開く」  |
| 8  | アシ   | as    | 「～が閉まる」 |
| 9  | アウン  | awun  | 「～が入る」  |
| 10 | アシン  | asin  | 「～が出る」  |

## ステップ9 言葉あそびで覚えよう2

十勝地方のとなえごと

◇地震しずめのまじない

クマンジャリ	クマンジャリ	クマンジャリ	クマンジャリ
kumancari	kumancari	kumancari	kumancari

シリポクナ クシ!	シリポクナ クシ!
sirpokna kus!	sirpokna kus!
「地の底の方を通れ!	地の底の方を通れ!」

☆ 地震の時にとなえるまじないの1種です。地震は地底にいるアメマスなどの大きな魚が起こしていると考えられていました。そこで「地の底へ行け」や「お前の腰骨を突くぞ」などと唱えてアメマスを脅すことで地震をしずめるまじないです。「クマンジャリ」は東北地域で地震の時に唱える「万歳楽（まんざいらく）」が元になっているようです。

このまじないの収録にあたって、『「東北北海道のアイヌ古謡録音テープ」の内容調査研究』アイヌ文化研究会（「アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第8号下巻資料編」財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 2009年）を参照しました。

## ステップ 10 「～しない」 否定文

(初級ステップ24参照)

(例文)

1. タン エカチ ナ オモ(ソモ) モコロ。  
tan ekaci na **omo (somo)** mokor.  
「この男の子はまだ眠らない」
2. ニサッター ルアンペ アシナンコロクス、オモ(ソモ) クオマン。  
nisatta ruanpe as nankor kusu, **omo (somo)** ku=oman.  
「明日は雨だろうから、(私は) 行かないつもりだ」
3. イワン チュフカ クイク カ オモ(ソモ) キ。  
iwan cup ka ku=iku **ka omo (somo) ki**.  
「私は6 ヶ月もお酒を切つてない」
4. エシットウライヌ カ オモ(ソモ) キ ノ エエクワ ピリカ。  
e=sitturaynu ka **omo (somo)** ki no e=ek wa pirka.  
「(君が) 道に迷わずに来てよかった」
5. クコロシタ エヌカラ カ オモ(ソモ) キ ヤ?  
ku=kor sita e=nukar ka **omo (somo) ki ya?**  
「私のイヌを (君は) 見なかったか?」
6. 漁師 クネルウェ カ オモ(ソモ) ネ。理容師 クネ。  
漁師 ku=ne ruwe ka **omo (somo) ne**. 理容師 ku=ne.  
「私は漁師じゃありません。(私は) 理容師です」



### 「～しない」の言い方

「～ではない」や「～しない」などの否定の文章は、オモ(ソモ) omo(somo) をつかって表現します。オモ(ソモ) は副詞の一種で、動詞の前に置くとその動詞を否定する意味になります。例文1ではモコロ mokor「眠る」にオモ(ソモ) をつけて「眠らない」という文にしています。1人称や2人称の文では、例文2のように人称接辞よりも前にオモ(ソモ) がつきます。

また、動詞の後ろにカ オモ(ソモ) キ ka omo(somo) ki 「～しない」というフレーズを付けて否定の意味を表すこともできます。動詞の前にオモ(ソモ) を置くのと意味の違いはありません。カ ka は「～も」にあたる助詞ですが、「無い」「しない」「できない」などの否定的な表現にともなって使われることが多く、「～も」と訳す必要がないこともあります。

## ステップ 11 「～ができない」「～がわからない」 否定動詞による否定文

(初級ステップ76参照)

(例文)

1. タン マキリ シコポプワ カクトウイエ カ エアイカプ。  
tan makiri sikopop wa ka ku=tuye ka eaykap.  
「このナイフは錆びて糸を切る事も (私は) できない」
2. クシノッ アイネ シリクンネ ヒ カク エラムシカレ。  
ku=sinot ayne sirkunne hi ka ku=eramuskare.  
「(私が) 遊んでいるうちに暗くなったことも (私は) わからなかった」
3. シケトク サク ペアイヌ ネ。  
siketok sak pe aynu ne.  
「人間は目の先を持たないものだ (先のことが見えないものだ)」
4. シコッペツ チェプオツ。トウシペツ チェプ サク。  
sikotpet cep ot. tuspel cep sak.  
「千歳川には魚がたくさんいる。利別川は魚を欠く」
5. タン ペツ オツ タ アナク チェプ イサム。  
tan pet or ta anak cep isam.  
「この川には魚がいない」
6. クアキ エク シリ カ イサム。  
ku=aki ek siri ka isam.  
「私の弟は来る様子もない」

### 否定的な意味を持つ動詞

動詞の中には、オモ(ソモ)などを使って否定の形にしなくても、はじめから否定的な意味を持っているものがあります。

エアシカイ easkay	⇔	エアイカプ eaykap	アン an	⇔	イサム isam
「～は～ができる」		「～は～ができない」	「～がある」		「～がない」
エラムアン eramuan	⇔	エラムシカレ eramuskare	インネ inne	⇔	モヨ moyo
「～は～がわかる」		「～は～がわからない」	「～が多い」		「～が少ない」
コロ kor	⇔	サク sak	ヌプル nupur	⇔	チャン can
「～が～を持つ」		「～が～を欠く」	「～が濃い」		「～がうすい」

## ステップ12 ルウエ・シリ・ハウエ 形式名詞の使い分け

(初級ステップ64参照)

(例文)

1. タント レラ ユツケ シリ ネクス、イミカクシペ コロワ オマン。  
tanto rera yupke **siri** ne kusu, imikakuspe kor wa oman.  
「今日は風がひどいようだから、上着を持っていけ」
2. ネン カ エク フミ ネ。エソン オマン マインカラ。  
nen ka ek **humi** ne. eson oman wa inkar.  
「誰か来たようだよ。外に出てみなさい」
3. トエトクシペ アナク ピリカ ヌプリ ネ ルウエ ネ。  
toetokuspe anak pirka nupuri ne **ruwe** ne.  
「藻琴山はきれいな山なんだよ」
4. エオムケカラ ハウエ ネ チキ, イルカイ シニアン。  
e=omkekar **hawe** ne ciki, irukay sini an.  
「風邪をひいたと言うのなら、しばらくやすんでいなさい」

## 見たこと、聞いたこと、確信したこと

ルウエ ruwe、シリ siri、ハウエ hawe は、どれも日本語の「こと」、「もの」、「ようす」などにあたる意味をあらわすもので、形式名詞とよぶ名詞の一種です。「ポロシタネ ルウエ！ poro sita ne ruwe！大きいイヌだこと！」、「タンシタクコロシタネ ルウエネ。tan sita ku=kor sita ne ruwe ne. このイヌは私のイヌなんだ（であるのだ）」、「シタモコンルウエクヌカラ。sita mokor ruwe ku=nukar. イヌが寝ているようす（寝ているの）を見た」のように、文の意味に応じて訳し分けると自然な日本語になります。

日本語では「藻琴山は美しい山なんだ」というとき、山の美しさを人から聞いたのか、それとも自分で見たのかによって、表現が変わることはありません。ところが、アイヌ語では目で見た様子はシリ siri、人の話で聞いたものはハウエ hawe で表します。したがって、藻琴山を見たことがない人が「(聞くところによると) 美しい山だ」と言った場合は、ハウエ hawe を使って「ピリカヌプリネハウエネ。pirka nupuri ne hawe ne.」といます。また、ルウエ ruwe は、話し手が確定した事実だと考えている事柄に使います。まとめると次のようになります。

siri 視覚的情報にもとづく事柄

例：「(水量を見て) この川はあふれている」

タンペツワッカポロシリネ。tan pet wakka poro siri ne.

hawe 言葉・人の声などの情報にもとづく事柄

例：「(地名案内を聞いて) この川の名は鷓川だ」

タンペツレヘムカベツネハウエネ。tan pet rehe mukapet ne hawe ne.

ruwe 話し手が確信している事柄

例：「(確信を持って) この川の名は鷓川だ」

タンペツレヘムカベツネルウエネ。tan pet rehe mukapet ne ruwe ne.

例にあるように、形式名詞は「～ネルウエネ。～ne ruwe ne」や「～ネルウエタパン。～ne ruwe tapan」などの決まった形で文の終わりに出てきます。ただし、日本語の「～です」のように、必ず文末につくというものでもなく、あまり使いすぎると不自然な文になるようです。

### ステップ 13 単語を覚えよう 3

1	ラメトッコロ	rametokkor	「勇気のある」
2	パウエトッコロ	pawetokkor	「雄弁な」
3	シレトッコロ	sirettokor	「容姿端麗の」
4	イレンカ ピリカ	irenka pirka	「まじめな」
5	ラマッコロ	ramatkor	「利口な」
6	ヌチャクテク	nucaktek	「ほがらかな」
7	ピリカ	pirka	「美しく立派な」
8	ラム アプル	ramu apur	「気立てがいい」
9	ヌプル	nupur	「霊力のある」
10	オйна	oyna	「尊い」

## ステップ14 言葉あそびで覚えよう3

美幌地方の言葉あそび

◇サマイクルの弓の弦が切れた時のイム

オレパシアン ペスワスワ ネイケ  
ヤーケワ アン ペトンチカマ ネイケ  
ウコウトウル ポロ ト オンネ ト  
トゥ スイ パケ チアウンケ  
レスイ パケ チアウンケ  
フタタウエ  
orepasi an pe suwasuwa ne ike  
yake wa an pe toncikama ne ike  
ukouturu poro to onne to  
tu suy pake ciawunke  
re suy pake ciawunke  
hutatawe

沖にあるものはスワスワであって  
陸にあるものはトンチカマであって  
その間にある大きな湖に  
二度頭を突っ込み  
三度頭を突っ込み  
ああ驚いた

☆サマイクルという、世界を作ったえらい神様の伝承です。イムというのは驚いたときなどに変わった行動をすることです。サマイクルの弓の弦が切れた時に、驚いてこんな叫びをあげたそうです。

☆この歌の収録にあたって、日本放送協会放送文化研究所・日本コロムビア（1949）『アイヌ歌謡集 第2集』を参照しました。

## ステップ 15 「私は～」 「君は～」 1人称・2人称単数主格

(初級ステップ28参照)

(例文)

1. クポウタリ トウラ エソン クオマンワ クオマナン。  
ku=poutari tura eson ku=oman wa ku=omanan.  
「(私の) 子どもたちと一緒に (私は) 外に出て (私は) 歩き回った」
2. チセ オッタ クアンマ テレビ クヌカラカネ クアン。  
cise or ta ku=an wa テレビ ku=nukar kane ku=an.  
「家に (私は) いてテレビを (私は) 見て (私は) いる」
3. オモ(ソモ) エワッカタ ノ、ネプ エキシリアン？  
omo (somo) e=wakkata no, nep e=ki siri an?  
「(君は) 水汲みもしないで、何を (君は) して (君は) いたんだ？」
4. エイマキ アラカ クス エチシ ハウエ ネ チキ イサ オレネ エオマン チキ  
ピリカ。  
e=imaki arka kusu e=cis hawe ne ciki isa or ene e=oman ciki pirka.  
「(君の) 歯が痛くて (君が) 泣いているというなら医者 (君が) 行っ  
たらいいよ」

### 誰の動作かによって動詞の形が変わる

アイヌ語の動詞は、主語（その動作をしている人・もの）が何であるかによって形が変わります。主語が「私（1人称単数）」の場合は、動詞の前にク ku= が、「君（2人称単数）」の場合はエ e= が付いた形になります。これらは動詞につく部品のようなもので、主格人称接辞と呼びます。主格人称接辞は名詞の前について「クポウタリ 私の子どもたち」や「エイマキ 君の歯」等の意味も表します。



## 日本語の「私」「君」とは違う

例文の訳には（ ）の中に入れて「私は」「君は」のように主語を表示してあります。日本語では、主語は初めに1回示せば済みますし、それさえも会話文では省略されるのが普通です。それに対し、アイヌ語では、1つの文の中の全ての動詞が「私は～する」や「君は～する」という形になります。ですから「日本語の「私は」は、アイヌ語ではクというのだ」という覚え方をすると、次のような間違いが起こりやすくなります。

「私はカボチャを洗って切ったが、まだ煮ていない」

○カボチャクウライエワクトウイエコロカ（コロカイ）ナオモ（ソモ）クスイエ。  
×クカボチャウライエワトウイエコロカ（コロカイ）ナオモ（ソモ）スイエ。

日本語の文をもとに単語を置き換えて行くと下段の文になりますが、これではアイヌ語の文としては誤りです。クは代名詞ではなく、あくまで動詞の一部です。否定文にする際も、人称接辞までが1つの単語ですから、オモ（ソモ）をつけるのはそれより前の位置です。こうした動詞の人称変化は日本語にはない現象ですので、まずは動詞を見たらクやエを付けるように意識しましょう。

## アクセントが動く

名詞や動詞の前にクやエが付くと、アクセントが、クやエの後ろに移ります（注意：美幌方言にはアクセントの区別はありませんが、以下の説明はほぼ当てはまります）。

「～の手」 テケ → 「私の手」 クテケ ※ 部がアクセント  
「～が～を洗う」 ウライエ → 「私が～を洗う」 クウライエ

また、特に千歳・沙流・鶴川方言では、母音で始まる言葉に ku= がつくと、u の音がなくなります。この場合はアクセントはいちばん前に移ります。

「私が座る」 クア ku=a（幌別） → カ k=a（千歳など）  
「私が来る」 クエク ku=ek（幌別） → ケク k=ek（千歳など）

ただし、iで始まる言葉の場合には、iが弱まって ku= とひとつながりの音節として発音されます。アクセントは最初のクに移り、一息にクイ kuy と発音します。

「私が話す」 クイタク ku=itak（幌別） → クイタク ku=ytak（千歳など）  
「私が腹を立てる」 クイルシカ ku=iruska（幌別） → クイルシカ ku=yruska  
（千歳など）

## ステップ 16 「私たちは～」 「君たちは～」 1人称・2人称複数主格

(初級ステップ37参照)

(例文)

1. テエタ ハンパヤヤ カ ペツ オッタ オカイ ペ ネクス ポロンノ チコイキ  
ワ チエッネ。

teeta hanpayaya ka pet or ta okay pe ne kusu poronno ci=koyki wa ci=e p ne.

「むかしカニも川にいたもんだからたくさん (私たちは) とって (私た  
ちは) 食べたよ」

2. ピリカ イペ パテク エチエ ア ナンコロ。

pirka ipe patek eci=e a nankor.

「すてきな物ばかり (君たちは) 食べてたんだろうねえ。

マチャ オッタ オカイ アシペ ネクス ハンパヤヤ カ チエ エラムシカレ。

macya or ta okay=as pe ne kusu hanpayaya ka ci=e eramuskare.

町に (私たちは) いるもんだからカニも (私たちは) 食べたことがないよ」

3. イタソ カタ エチロク チキ エチメノイエ ナンコロ。キナ トウリ。

itaso ka ta eci=rok ciki eci=menoye nankor. kina turi.

「板床の上に (君たちは) 座ったら (君たちは) 寒いでしょう。ゴザを  
ひきなよ」

4. 座布団 カタ ロク アシワ オカイ アシクス、ピリカワ ピリカワ。

座布団 ka ta rok=as wa okay=as kusu, pirka wa pirka wa.

「座布団の上に (私たちは) 座って (私たちは) いるから、いいよいいよ」

### 「君たちが～する」のいい方 (2人称複数主格)

ステップ 15 では、主語が「私」や「君」のように単数のときの主格人称接辞を学びました。ここでは「私たち」や「君たち」など、主語が複数の場合の主格人称接辞を紹介します。主語が「君たち (2人称複数)」である場合は、動詞の前にエチ eci= がついた形になります。このとき、複数形を持つ動詞であれば複数形を使います (動詞の複数形についてはステップ 30 で説明します。)

また、クやエがつくと、単語のアクセントが変化しましたが、エチの場合はアクセントはもとのままです。このため、3つ目や4つ目の母音にアクセントが来るといふ、アイヌ語としては少し風変わりな発音になることもあります。

「君が来た」エエク。e=ek. → 「君たちが来た」エチアラキ。eci=arki.

「君が帰る」エオシピ。e=osipi. → 「君たちが帰る」エチオシッパ。eci=osippa.

### 「私たちが～する」のいい方（除外的1人称複数主格）

「私たちが（1人称複数）」と言うときの人称接辞は2つあります。名詞と他動詞の場合には前にチ ci= がつきます。クやエと同じく、アクセントもチの後ろに動きます。

「～の目」シキ siki → 「私たちの目」チシキ ci=siki

「～が～を開ける」マカ maka → 「私たちが～を開ける」チマカ ci=maka

千歳・沙流・鶴川では、i以外の母音で始まる言葉にチ ci= がつくと、iの音がなくなります。

「～の髪」オトピ otopi → 「私たちの髪」チヨトピ c=otopi

「～が～を捨てる」オスラ osura → 「私たちが～を捨てる」チヨスラ c=osura

自動詞の場合は後ろにアシ=as がつきます。2人称複数と同じく1人称複数の場合も、動詞に単数・複数の区別がある場合は複数形を使います。

「私が来る」クエク。ku=ek. → 「私たちが来る」アラキアシ。arki=as.

「私が座る」クア。ku=a. → 「私たちが座る」ロクアシ。rok=as.

このとき、動詞のアクセントのほかに、アシ=asにもアクセントが置かれます。また、次のように動詞が子音で終わっている場合は一続きに発音されることもあります。

「私たちが話す」イタクアシ。⇔イタカシ。「私たちが下りる」サプアシ。⇔サパシ。

### 「聞き手を含まない」

例文に出て来た「私たち」は、どれも聞き手を含んでいません。そこで「動作の主語に聞き手が含まれない」という意味で「除外的1人称複数」と呼びます。このことをよりはっきりさせるため「手前ども」という訳語を当てることもあります。次のステップでは、聞き手を含む「私たち」を学びます。

## ステップ17 「いっしょに～する」 包括的1人称複数主格

(初級ステップ38参照)

(例文)

1. タント ネネ パイエアン チキ ピリカルウェ アン？  
tanto nene paye=**an** ciki pirka ruwe an?  
「今日どこに (私たちが) 行ったらいいかな？」
2. アカン オッタ パイエアン マユウランセン エネ アノ ワ シノッ アン  
ロク。  
阿寒 or ta paye=**an** wa 遊覧船 ene **an**=o wa sinot=**an** rok.  
「阿寒に (私たちが) 行って遊覧船にでも (私たちが) 乗って (私たちが)  
遊びましょう」
3. ネア ウナラペ ネヲネ アッカ(アッカイ) エラムアン クス、アンタクワ  
オルシペ アンヌ ロク。  
nea unarpe nep ne akka (akkay) eramuan kusu, **an**=tak wa oruspe an=nu rok.  
「あのおばさんは何でも知ってるから、(私たちが) 招待して (私たちが)  
話を聞こうよ」
4. ニサッタ クルマ チオワ チトウラ ナンコロ。ホシキノ エチパイェ  
アッカ(アッカイ) ピリカ。  
nisatta 車 **ci**=o wa **ci**=tura nankor. hoskino **eci**=paye akka (akkay) pirka.  
「あした私たちが車にのって (私たちが)連れて行くよ。君たちは先に行っ  
ててもいいよ」
5. ハウエネチキ、トペンペ チホクワ パイエアシ ナンコロ。 アネ カネ ウコ  
イタクアン ロク。  
hawe ne ciki, topenpe **ci**=hok wa paye=**as** nankor. **an**=e kane ukoytak=**an** rok.  
「では、私たちは菓子を買って (私たちは) 行こう。(私たちが) 食べな  
がら (私たちが) 話そう」

### 2つの「私たち」

例文1では「私たちはどこにでかけようか」ということを話題にしています。  
この「私たち」には、話し手と聞き手の両方が含まれており「一緒に」と言い

換えても同じ意味になります。これを「(聞き手を含む) 私たち」という意味で「包括的1人称複数」といいます。例文2・3の「私たち」も、「一緒に」と訳すことができます。ただし、例文4と5に出てくるチ ci= やアシ=as で表された「私たち」は「一緒に」とは訳せません。ここでは話し手は、聞き手である「君たち」とは別行動を取っているからです。このような「私たち」は強いて言い換えようとするれば「手前ども」や「こちら」となるでしょう。

この2つを見分ける感覚がつけば、アイヌ語を学ぶ上でとても役に立ちます。次の文の「私たち」は、「一緒に」と「こちら」のどちらに言い換えられるでしょう。

- ①私たちは映画を見てから行きます。 ②私たちがここで会うのは3回目ですね。  
 ③秋になると私たちはトンボを取ったね。④私たちが作った団子を食べて下さい。  
 ⑤彼が庭を掃くから私たちは床を拭こう。⑥私たちも行っていいですか？

### 「私たちみんなで～する」の言い方 (包括的1人称複数主格)

「私たちが(みんなが)」と言うときの人称接辞は2つあります。名詞と他動詞の場合には前にアン an= がつきます。eci= と同じく、アクセントの移動が起こりません。

「～の耳」キサラ kisara → 「私たちの耳」アンキサラ an=kisara

「～が～を恐れる」シトマ sitoma → 「私たちが～を恐れる」アイシトマ an=sitoma

自動詞の場合は後ろにアン=an がつきます。2人称複数と同じく1人称複数の場合も、動詞に単数・複数の区別がある場合は複数形を使います。

「私が行く」クオマン。ku=oman. → 「私たちが行く」パイェアン。paye=an.

「私が大きくなる」クオンネ。ku=onne. → 「私たちが大きくなる」オンネアン。onne=an.

このとき、動詞のアクセントのほかに、アン=an にもアクセントが置かれます。また、次の様に動詞が子音で終わっている場合は一続きに発音されることもあります。

「私たちが話す」イタクアン。⇔ イタカン。「私たちが遊ぶ」シノッアン。⇔ シノタン。

	名詞・他動詞	自動詞
除外的 1人称複数 (聞き手を含まない)		
包括的 1人称複数 (聞き手を含む)		

## ステップ18 「私に～」 「君に～」 1人称・2人称目的格

(初級ステップ52、53、54参照)

(例文)

1. ワッカ クルス(ルスイ) ナ。クハポ ワッカ エンクレ。  
wakka ku=ku rusu (rusuy) na. ku= hapo wakka en=kure.  
「(私は) 水が飲みたいよ。母さん水を (私に) 飲ませてちょうだい」
2. サンタエカシ エオイラ カ オモ(ソモ) キノ、エコエクナンコロ。  
サンタ ekasi e=oyra ka omo (somo) ki no, e=koek nankor.  
「サンタのおじいさんは 君を 忘れずに、君の所 にくるでしょう」
3. エタク、エピリカハウエ ウンヌレ アン。  
etak, e=pirkahawe un=nure an.  
「さあ、君の素敵な声を 私たちに 聞かせてちょうだい」
4. トウアンパシクル エチヌカンナ、エタク エチコロシトヌイナアン。  
tuan paskur eci=nukar na, etak eci=kor sito nuyna an.  
「あのカラスが 君たち を見てるから、はやく 君たち の団子をかくして」
5. カムイ アイヌコロ アンキチキカムイ カ イエプンキネッネナ。  
kamuy aynukor an=ki ciki kamuy ka i=epunkine p ne na.  
「カムイを (私たち) 大事にしていれば、カムイも 私たち を守ってくれるものだから」

## 「私に」と「私が」

これまで学んだ人称接辞は、どれも主語を表す主格人称接辞でした。日本語でいえば「私の」や「私は」、「君が」など、「物の持ち主」や「動作を主になって行う人」を表します。

例文1は「父さんが私に水を飲ませる」ことを求めています。「クレ kure 飲ませる」という動詞の主語は「父さん」で、「私」は飲ませる対象です。このように、主語ではなく動作の対象（目的語）を表すものを目的格人称接辞と呼びます。日本語では、主語なら「～は、～が」、目的語なら「～を、～に」といった助詞の使い分けで表現するところですが、アイヌ語では「私」の形が全く変わるので注意が必要です。クやエンを訳すときには「私が」「私を」のように助詞まではっきり意識するとよいでしょう。

目的格人称接辞は、どれも動詞や名詞の前につきます。

私を、私に対して～	エン en=
君を、私に対して～	エ e=
君たちを、私に対して～	エチ eci=
私たちを、私に対して～ (聞き手を含まない)	ウン un=
私たちを、私に対して～	イ i=

## 「私の前に」「私のように」

目的格人称接辞は、動詞のほかにも位置関係を表す名詞（ステップ36）や後置副詞と結びつきます。エンの意味を「私に対して」と考えるとわかりやすいかもしれませんが、それぞれのステップで詳しく説明していますので参照してください。

### 位置名詞

「(~に対して) 前」 コッチャ kotca	「(~に対して) 後ろ」 オシマケ osmake
「私の前」 ○エンコッチャ en=kotca	「私の後ろ」 ○エンオシマケ en=osmake
×クコッチャ ku=kotca	×クオシマケ ku=osmake

### 後置副詞

「(~に) 似て」 ネノ neno	「(~に対して) よりも」 アッカリ akkari
「私に似て」 ○エンネノ en=nenno	「私よりも」 ○エンアッカリ en=akkari
×クネノ ku=nenno	×クアッカリ ku=akkari

## ステップ 19 単語を覚えよう 4

1	ラッチノ	ratcino	「静かに」
2	ユブケノ	yupkeno	「激しく」
3	トゥナシノ	tunasno	「急いで」
4	ラッチノ	ratcino	「ゆっくりと」
5	ピリカノ	pirkano	「きれいに」
6	イヨッタ	iyotta	「最も、一番」
7	ニサプノ	nisapno	「急に」
8	ソンノ	sonno	「非常に」
9	レンカイネ	renkayne	「勝手に」
10	アリキキノ	arikikino	「一生懸命に」



## ステップ20 言葉あそびで覚えよう4

◇人称接辞の歌（「ドレミの歌」の節で）

クは私の ku=           エはあなたの e=   eci=（エチ）あなたたち  
 ci=（チ）はてまえども   =as（アシ）は自動詞に   a=（ア）は一般に  
 =an（アン）は敬称も en=（エン）un=（ウン）e=（エ）eci=（エチ）i=（イ）

☆歌って人称接辞の役割を覚えてしまいましょう。（作成：北原次郎太）

ク	ku=	1 人称単数主格	動詞について「私は、私が」 名詞について「私の」
エ	e=	2 人称単数主格	動詞について「君は、君が」 名詞について「君の」
エチ	eci=	2 人称複数主格	動詞について「君たちは、君たちが」 名詞について「君たちの」
チ	ci=	除外的 1 人称複数主格	他動詞について 「(相手を含まない) 私たちは、私たちが」 名詞について「私たちの」
アシ	=as	除外的 1 人称複数主格	自動詞について 「(相手を含まない) 私たちは、私たちが」
ア	a=	不定人称主格	他動詞について 「(相手を含む) 私たちは、私たちが」 「一般に人は、人が」 「(敬称表現の際に) あなたは、あなたが」 名詞について「(相手を含む) 私たちの」
アン	=an	不定人称主格	自動詞について 「(相手を含む) 私たちは、私たちが」 「一般に人は、人が」 「(敬称表現の際に) あなたは、あなたが」
エン	en=	1 人称単数目的格	他動詞について「私に、私を」
ウン	un=	1 人称複数目的格	他動詞について「私たちに、私たちを」
エ	e=	2 人称単数目的格	他動詞について「君に、君を」
エチ	eci=	2 人称複数目的格	他動詞について「君たちに、君たちを」
イ	i=	不定人称目的格	他動詞について 「(相手を含む) 私たちに、私たちを」 「人に、人を」「あなたを」

## ステップ 21 「私が君に～」 「君が私に～」 人称の組み合わせ

(例文)

1. ヌマン ピリカプ エエンコレルウェ ネクス、タンペ エコレアンナ。  
numan pirka p een=kore ruwe ne kusu, tan pe e=kore=an na.  
「昨日良いものを (君が私に) くれたから、(お返しに) これを (私が君に) あげるよ」
2. エウンコシネウェ ワイヤイライケレ。  
eun=kosinewe wa iyayraykere.  
「(君が) 私たちを訪ねてくれてありがとう」
3. タン アパッポ ウナラペ エチコレヲネルウェ ヘ？  
tan apappo unarpe eci=kore p ne ruwe he?  
「この花はおばさんが 君たちに くれたのかい？」
4. エチウンコレヲネクニ クラム アヲ、ネンウンコレヲネルウェ アン？  
eciun=kore p ne kuni ku=ramu a p, nen un=kore p ne ruwe an?  
「君たちが (私たちに) くれたのだと思っていたのに、誰が (私たちに) くれたんだろう？」

## 「私が君に」(主格目的格変化)

「私が君に～」や「君が私に～」という文は、主格と目的格の人称接辞を組み合わせて表現します。これを主格目的格変化と呼びます。方言によってかなりの違いがあり、まだわからない部分の多いところですが。

美幌方言の人称の組み合わせを表にしました。縦の列に主格、横の行に目的格を置いてあります。「私が君を～」は、まず縦列の「私が」を探し、そこから右へ行って「君に」に当たる所にある「エアン e=an」を使います。この場合、「私が」を表す「ク」と、「君に」を表す「エ」を組み合わせて「クエ～」とすれば良さそうですが、このような表現はどの方言にもありませんので注意してください。

美幌方言の資料から確認できない組み合わせについては、仮に十勝方言の形をあげておきました(表の※印の部分)。また、「私たちが君に」の組み合わせについては、「私が君に」の形と十勝方言の形から推定したものをあげています(表の※※印の部分)。

### ・コレ kore 「～が～に～を与える」の主格目的格変化表

主格 \ 目的格	彼に	私に	私たちに	君に	君たちに
私が					
彼が		エンコレ. en=kore.	ウンコレ. un=kore.	エコレ. e=kore.	エチコレ. eci=kore.
私が	クコレ. ku=kore.			エコレアン. e=kore=an.	エチコレアン. eci=kore=an. ※
私たちが	チコレ. ci=kore.			エコレアン. e=kore=an. ※	エチコレアン. eci=kore=an. ※※
君が	エコレ. e=kore.	エエンコレ. ※ e=en=kore.	エウンコレ. ※ e=un=kore.		
君たちが	エチコレ. eci=kore.	エチエンコレ. ※ ecien=kore.	エチウンコレ. ※ eciu=kore.		

### 命令文との違い

「魚をくれ」などの命令文では、「くれる」行為の主体が「君」であるため「君が私にくれた」という文と混同する事があります。命令文は主格人称が表示されないので注意して下さい。

## ステップ22 「私も」「君も」を強調する人称代名詞

(例文)

1. クアニ ソンパクエナンコロ。エアニ ウサ エエルス(ルスイ) ルウェ ヘ?  
**kuani** sompa ku=e nankor. **eani** usa e=e rusu (rusuy) ruwe he?  
「私はそばを(私は)食べるよ。君も(君は)食べたいかい?」
2. クアニ ウサクエルス(ルスイ) コロカ(コロカイ)、タント アナク ベント  
ウクコロワクエク。  
kuani usa ku=e rusu (rusuy) korka (korkay), tanto anak 弁当 ku=kor wa ku=ek.  
「私も食べたいけど、今日は弁当を持って来たんだ」
3. アノカイ ウサ エイガ アンヌカラクス パイエアン ロク。  
**anokay** usa 映画 an=nukar kusu paye=an rok.  
「私たちも映画を見に行きましょう」
4. チオカイ アナク アバシリ ワ アラキアシ。エチオカイ ネイ ワ エチアラキ  
ルウェ アン?  
**ciokay** anak 網走 wa arki=as. **eciokay** ney wa eci=arki ruwe an?  
「私たちは網走から来ました。あなたたちはどこから来たのですか?」

## 人称代名詞

人称代名詞は日本語の「私」や「君」にあたるものですが、日本語の「私・君」がかなり頻繁に使われるのに対して、アイヌ語の人称代名詞は（方言にもよりますが）それほど使う機会がありません。主語や目的語は動詞の形が変化することで表されるので、人称代名詞を使うのは、主語や目的語が誰であるのかを特に強調したいときに限られます。

	単数	複数
1 人称	クアニ kuani 私	チオカイ ciokay (相手を含まない) 私たち
2 人称	エアニ eani 君	エチオカイ eciokay 君たち
3 人称	アニヒ anihi 彼※	オカイ okay 彼ら※
不定人称		アノカイ anokay (相手を含む) 私たち

3 人称代名詞は美幌方言の資料で確認できませんので、仮に十勝方言の形をあげておきました（表の※印の部分）。また、1 人称複数にはチウタリ ciutari、2 人称複数にはエチウタリ eciutari、不定人称複数にはアヌタリ anutari という形があることが推定されます。

敬称についてはステップ 23 で紹介しますが、相手を特に敬って話す場合は、動詞や人称接辞の使い方が特殊になります。同様に、人称代名詞も通常とは異なり、相手を指すものとして不定人称代名詞を使います。

## ステップ 23 「～なさいましたか?」「～なさってください」 尊敬の表現

(初級ステップ65参照)

(例文)

1. イペアン ルウェ ヘ? ナ オモ(ソモ) イペアン チキ テマンタ ロクアン  
マイペアン チキ ピリカ。

**ipe=an** a ruwe he? na omo (somo) **ipe=an** ciki temanta **rok=an** wa **ipe=an** ciki  
pirka.

「あなたは食事をなさいましたか? まだでしたらここへあなたがおかけ  
になってあなたが食事なさってください」

2. ネネ パイェアン ワ チカヲコイキヲ アンヌカラ ハウエ アン?

nene **paye=an** wa cikapkoykip **an=nukar** hawe an?

「あなたはどちらへおいでになってタカを (あなたは) ごらんになった  
のですか?」

3. フシコ プリ エラムアンクル アンネ クス、ペカンペカ アネ アムキリ ナ  
ンコロ。

husko puri eramuan kur **an=ne** kusu, pekanpe ka **an=e** amkir nankor.

「あなたは昔の暮らしをご存じの方でいらっしゃるので、菱も (あなたは)  
召しあがったことがあるでしょう」

4. イクパスイ ネ アッカ(アッカイ) エムシネ アッカ(アッカイ)、アンカラ  
ペソンノ ピリカ。

ikupasuy ne akka (akkay) emus ne akka (akkay), **an=kar** pe sonno pirka.

「捧酒籠でも宝刀でも、あなたがお作りになった物はすばらしい」

## 尊敬の表現

アイヌ語ではある種の名詞や人称接辞を用いて尊敬の表現が組み立てられます。この課では主として人称接辞を用いた尊敬の表現について取り上げます。

聞き手に対する尊敬を表す場合には、アン an= (方言によってはアン a=) という人称接辞が使われます。これは「(聞き手を含めた) 私たち」という意味を表す人称接辞と同じ形ですが意味の異なるものです。また、単数と複数の区別のある動詞の場合には複数形の動詞が使われます。なお、このタイプの尊敬の表現は、成人女性が成人男性に対して用いるのが一般的とされています。また、ウウェランカラパイタク uwerankarapitak といっごく改まった話し方でのあいさつでは、男性どうしても尊敬の表現を使います。

さらに、方言によっては、2人称の複数を表わすエチ eci=「あなたたち」が聞き手に対する丁寧な表現を表わすことがあります。このタイプの表現はアン=an を用いた尊敬表現よりも幅広く使われるようです。

## ステップ 24 「きれいに」「ゆっくり」「みじかく」 副詞

(例文)

1. ナ ラッチノ イエワ エンコレ。  
na **ratcino** ye wa en=kore.  
「もう少し穏やかに話してください」
2. エンコタ アラキ アン。  
**enkota** arki an.  
「急いで来なさい」
3. エテッケ イルシカ ノクイエヌ アン。  
**etekke iruska no** ku=ye p nu an.  
「おこらないで私の話すことを聞いて」
4. エオイラ カ オモ(ソモ) キノ エテケ ウライエ アルウエ ヘ？  
e=oyra ka **omo(somo) ki no** e=teke uraye a ruwe he?  
「(君は) 忘れないで (君は) 手を洗ったの？」
5. タネ キシノツチャ イヨッタ クエラマス！  
**tane** ki sinotca **iyotta** ku=eramasu!  
「今歌っている歌が一番 (私は) 好きだ！」



## 副詞のはたらき

この課では主として副詞を使った表現を取り上げます。副詞とは日本語の「たくさんある」「とてもはやい」などのように、動詞の前に置かれて動作・状態のあり方を説明する言葉です。

タネ tane 「今」 やイヨッタ iyotta 「いちばん」 なども、副詞の一部です。

副詞のなかには、動詞にノ -no という形を付けて規則的につくられるものがあります（例：ポン pon 「小さい」 →ポンノ ponno 「少し」、ピリカ pirka 「良い」 →ピリカノ 「良く」、トウイマ tuyma 「遠い」 →トウイマノ tuymano 「遠く」）。

また、「～しない、～ではない」という否定の表現にはオモ(ソモ) omo (somo) という副詞が、あるいは「けっして～するな」という禁止の表現にはエテッケ etekke という副詞が用いられます（ステップ 29 を参照）。

## ステップ 25 単語を覚えよう 5

1	ノミ	nomi	「～が～に祈る」
2	エプンキネ	epunkine	「～が～を見守る」
3	ソンココロ	sonkokor	「～が～に伝える」
4	ウク	uk	「～が～を受け取る」
5	オマンテ	omante	「～が～を届ける」
6	オリパク	oripak	「～が恐れ慎む」
7	ヤイライケ	yairayke	「～が～に感謝する」
8	エオリパク	eoripak	「～が～を尊敬する」
9	イナウケ	inawke	「～が木幣を削る」
10	イノンノイタク	inonnoytak	「～が祈り詞を唱える」

## ステップ 26 言葉あそびで覚えよう 5

美幌地方のなぞなぞ

- ① オマナ オマナ アイネ シトゥリ ヲネヲネヤ?

oman a oman a ayne situri p nep ne ya?

山に行って自分自身を伸ばすものは何ですか?

☆ヒント 山で使う道具の一つです。長く伸ばして使うものといえば…。

答えは 86 ページ

- ① スムタク エパウシ ヲネヲネヤ?

sumtak epausi p nep ne ya?

脂のかたまりを頭にかぶっているものは何ですか?

☆ちょっと不思議な問題と答えです。脂のかたまりとは、雪帽子をかぶっている風景をたとえた表現です。

答えは 86 ページ

☆ここで紹介する謎々は「知里真志保ノート（北海道立文学館所蔵）」に基づくものです。ただし、一部の表現を改めました。

## ステップ 27 人称接辞のまとめ

人称接辞についての注意点を思い出しましょう。

### ●人称接辞は動詞の一部

人称接辞と動詞はひとつながりの物なので、目的語やオモ(ソモ)・エテッケ(副詞)は前に、ルス(ルスイ)・ナンコロ(助動詞)や、ワ・ナ(終助詞)は後ろにつける。

主語  
目的語

オモ・エテッケなど  
副詞

人称接辞+動詞

助動詞  
終助詞など

### ●なにもない=3人称

3人称は、動詞に何もつきません。複雑な文法事項を考えるときは「ゼロがつく」と考えた方がわかりやすいこともあります。動詞に何もついていないときは「誰でもない=不定」なのではなく、その文か、それよりも前に出て来た「私・君」以外の誰かが主語になっていることに注意しましょう。

### ●省略しない

人称代名詞の「私」や「君」があっても、人称接辞は省略できません。また、同じ主語の動詞には全て同じ人称接辞がつかます。

クアニ エソン クオマンワ クワッカタワ クエク。

kuani eson ku=oman wa ku=wakkata wa ku=ek.

私は (私は) 外に出て (私は) 水汲みをして (私は) 来た。

### ●アクセントが変わる (こともある)

ク、エ、チなどがつくと、アクセントが移動します。アン、エチの場合は移動しません。

ヌカラ nukar ⇒ クヌカラ ku=nukar      アウン awun ⇒ クアウン ku=awun  
⇒ アンヌカラ an=nukar

### ●動詞のタイプによって変わる

1 人称複数や尊敬表現の場合、自動詞にはアシやアンが動詞の後ろにつきます。その他どんな場合でも動詞の前に人称接辞がつきます。自動詞かどうかの判断は、主語以外に目的語が必要かどうか（例えば訳語に「～を」が入るかどうかが目安になります。

パイエアシ paye=as                      チェプチコイキ cep ci=koyki  
～が出かける 私たちが                  魚 私たちが～を獲る

### ●「私は」と「私を」のちがい

「私が」「私たちは」など主語を表す→主格人称接辞 ク、チ～  
「私に対して」「私たちを」など目的語を表す→目的格人称接辞 エン、ウン～  
シタ クヌカラ。sita ku=nukar.      シタ エンヌカラ。sita en=nukar.  
「イヌを私が見る」                      「イヌが私を見る」

### ●位置名詞や副詞にも「私に」を使う

「私の前」、「私のそば」、「私みたい」、「私よりやせてる」などの「私」は、全てエン（目的格人称接辞）で表します。

エンコッチャ                  エンサム                  エンネノ                  エンアッカリ  
en=kotca                      en=sam                      en=nenno                      en=akkari  
「私に対して前」    「私に対してそば」    「私に似た」    「私に対して、より」

### ●相手を含む私たちと含まない私たち

私たち（1人称複数）は、「私たち」としてくくられる中に聞き手が含まれるかどうかで2つに分かれます。

含まない（除外的1人称複数）	含む（包括的1人称複数）
自動詞＝アシ =as	自動詞＝アン =an
チ＝ ci＝ 他動詞	ア＝ a＝ 他動詞

### ●あなた様 ※敬語表現

聞き手を含む私たち（包括的1人称）アンは、そのまま敬称表現にも使えます。動詞に単数・複数の人種接辞をつけ、動詞も複数形にします。

## ステップ28 「あの」「この」「2つの」「3つの」いろいろな連体詞

(初級ステップ41、42参照)

(例文)

1. レ サロルントリ オユプワ オマン。  
**re saroruntori oyupu wa oman.**  
「3羽のツルが飛んで行った」
2. タン コタン タクアムキリアチャポ アン。  
**tan kotan ta ku=amkir acapo an.**  
「この町に私の知り合いのおじさんがいる」
3. ネ アチャポ ピリカ トウキ トウプカレプカ コロ。  
**ne acapo pirka tuki tu p ka re p ka kor.**  
「そのおじさんはいい酒盃を2つも3つも持っている」
4. トウアン シントコカ オプッタ アチャポ コロペネ。  
**tuan sintoko ka oputta acapo kor pe ne.**  
「あそこの行器もみんなおじさんの持ち物だ」

## 連体詞のはたらき

連体詞は日本語の「この、その」や「2つの」のように、名詞の前に置かれて位置や数などの情報を付け加える言葉です。

連体詞には数を表わすもの(「1つの」「2つの」)や空間を指示するもの(「この」「あの」)、前に出てきた話題を指示するもの(「その」)などがあります。この課では主な連体詞について取り上げます。

数を表わす連体詞には、シネ sine 「1つの、1人の」、トゥ tu 「2つの、2人の」、レ re 「3つの、3人の」などがあります(詳しくは初級ステップ42を参照)。

空間を指示する連体詞には、タン tan 「この(自分と同じ位置にあるもの)」、トゥアン tuan 「あの(自分から遠い位置にあるもの)」などがあります。

なお、タン tan は時間の指示にも用いられます(例:タント tan to 「この日(今日)」)。

前に出てきた話題を指示する連体詞には、ネ ne 「その、例の」、ネア nea 「その、例の」などがあります。

## ステップ29 「～しなさい」「～するな」命令・禁止

(初級ステップ32、33参照)

(例文)

1. テイネ エク ワ ムンヌイエ。  
teyne **ek** wa **munnuye**.  
「ここへ来て掃除をしなさい」
2. エカシ テマンタ ロク アン。エンコタ アペクル アン。  
ekasi temanta **rok an**. enkota **apekur an**.  
「おじいさん、ここへ座ってください。さあ火にあたってください。」
3. ニシパ エネ ナンコン ナ。  
nispa e=ne **nankor** na.  
「立派な人になるんだよ」
4. タネソンノクシンキクス、エンカイワ エンコレ。  
tane sonno ku=sinki kusu, en=kay **wa en=kore**.  
「もうほんとうに（私は）疲れたから、（私を）おんぶしてちょうだい」
5. ラウオチ アナク ウエン ペネクス、エテツケ ヌカヲアン。  
rawoci anak wen pe ne kusu, **etekke** nukar an.  
「虹というものは化け物だから、決して見るんじゃないよ」
6. エテツケ チシノ ピリカノ モコロ。  
**etekke** cis no pirkano mokor.  
「泣かないで寝なさいよ」



## 命令文の作り方

「～なさい」という命令の表現には、動詞をそのまま用いることができます（例：ヌカラ nukar 「見ろ、見なさい」、エケ ek 「来い、来なさい」）。なお、命令の表現においては、命令する相手を表す人称接辞は付きませんので注意が必要です。例えば、エヌカラ e=nukar 「あなたが見る」という言葉は「見なさい」という命令の表現としては普通用いられません。

丁寧な命令を表す場合には、アン an という終助詞が用いられます（例：ヌカラ アン nukar an 「ごらんなさい」）。なお、単数と複数の区別がある動詞の場合、アンは複数形の動詞の後に付けられます（例：アラキ アン arki an 「来なさい（アラキはエケの複数形）」）。

また、助動詞ナンコロ nankor を用いると「君は～するだろう」という推量の文になりますが、実際には遠まわしな命令の表現として使われます。なお、ナンコロを用いた命令表現では、例外的に命令する相手を表す人称接辞が付けられます。

エヌカン ナンコロ。

e=nukar nankor.

「君は見るだろう → 見なさい」

依頼の表現には、ワ コレ wa kore 「～してください」という言い方が用いられます。なお、ワ コレを用いた依頼表現でも、相手を表す人称接辞は付けられません。しかし、動作の受け手は人称接辞を付けて表現されるので注意が必要です。

ヌカラ ワ エンコレ。

nukar wa en=kore.

「見てください（エン en= は「私を、私に）」

## 禁止の表現

禁止の表現には、エテッケ etekke 「決して～するな」という副詞が用いられます。禁止の表現においても、聞き手を表す人称接辞は付けられません。

エテッケ ヌカラ。

etekke nukar.

「見るな」

## ステップ 30 「大勢で～する」自動詞の単数・複数

(初級ステップ43、44、47、48参照)

(例文)

1. アペサムタ ロクワ オカイ アン。  
ape sam ta **rok** wa **okay** an.  
「(2人以上に向かって) 火の側に座っていなさい」
2. エタク アウプアン マ シニアン ロク。  
etak **awup**=an wa **sini**=an rok.  
「さあ、入って休もう」
3. クシロタ エチヤプワ エチアラキ ルウエ ヘ？  
釧路 ta eci=**yap** wa eci=**arki** ruwe he?  
「釧路に(君たちは) 上陸して(君たちは) 来たのかい？」
4. カペウ オユッパワ アラキ。  
kapew **oyuppa** wa **arki**.  
「カモメが(たくさん) 飛んで来た」

### 主語の数で変化する自動詞

アイヌ語では、1人で出かけるときはオマン oman、2人以上で出かけるときはパイェ paye という動詞を使います。このように、日本語では同じ「行く」という動詞を使う場面でも、アイヌ語ではまったく形が変わることがあります。前者を「単数形」、後者を「複数形」と呼びます。ただし、すべての動詞にこうした区別があるのではなく、変化の仕方にもパターンがあるので、それに慣れることで習得しやすくなります。

### 変化のパターン② 単語の末尾が「a, i, u, e, o」→「パ」

単数形が母音で終わっている自動詞の多くは、末尾の母音を「パ」に変えると複数形になります。

オプニ opuni → オブンパ opunpa ～が起きる

オマプ oyupu → オユツパ oyuppa ～が飛ぶ

### 変化のパターン① 単語の末尾が「ン」→「プ」

次のように、単数形が「ン (n)」で終わっている動詞は、末尾を「プ (p)」に変えると複数形になります。

アウン awun → アウプ awup ～が入る

ラン ran → ラプ rap ～が下りる

### 変化のパターン③ まったく形が変わる

このタイプは覚えてしまうしかありませんが、それほど多くはありません。

ア a → ロク rok ～が座る

エク ek → アラキ arki ～が来る

### 例外

例外として、「2つの」や「3つの」、「たくさんの」などの言葉が前につくと、2人以上での行動でも動詞は単数形のままになります。これは方言によっても違いがあります。

トゥシタ エク。「2匹のイヌが来る」

tu sita ek.

## ステップ31 「たくさん〜する」他動詞の単数・複数

(初級ステップ43、44、48参照)

(例文)

1. イノウ クアンパワ クロシキワ カムイ クコオンカミ。  
inaw **ku=anpa** wa **ku=roski** wa kamuy ku=koonkami.  
「木幣をいくつも (私は) 抱えて (私は) 立てて 神に (私は) 拝礼した」
2. タン イモ ウライパワ トゥイパワ ス オロ オマレ アン。  
tan imo **uraypa** wa **tuypa** wa su or omare an.  
「この (いくつかの) イモを洗って切ってザルに入れなさい」
3. モンライケ オプッタノ アノケレパナ。エタク 枝豆 サプテ アン。  
monrayke oputtano an=**okerpa** na. etak 枝豆 **sapte** an.  
「仕事を全部 (私たちは) 終わらせたぞ。さあ枝豆を出して茹でて」
4. タント ポロンノ ニクペレパ アワ。  
tanto poronno ni ku=**perpa** a wa.  
「今日 (僕は) たくさん薪を割ったよ」

### 目的語の数・動作の回数で変化する他動詞

他動詞にも単数形と複数形の区別を持つ物があります。次の文はどちらも「私がイモを洗う」という意味です。

A: イモ クウライエ。 imo ku=uraye. 「私はイモを洗った」

B: イモ クウライパ。 imo ku=uraypa. 「私はイモを（いくつも）洗った」

A・Bとも主語は同じですが、Aは「洗う」の単数形ウライエ、Bは複数形ウライパを使っています。この場合、Aは1個のイモを、Bは2個以上のイモを洗ったこととなります。このように、他動詞は目的語が1つか2つ以上であるかによって変化します。また、Bのウライパは「何度も洗った」ということも表すことができます。このように、他動詞は、動作の回数が1回かそれ以上かによっても変化します。変化のパターンは、自動詞と共通しています。

### 変化のパターン② 単語の末尾が「a, i, u, e, o」→「パ」

単数形が母音で終わっている他動詞の多くは、末尾の母音を「パ」に変えると複数形になります。

アニ ani → アンパ anpa 「～が～を持つ」

タサ tasa → タシパ taspā 「～が～と交換する」

### 変化のパターン② まったく形が変わる

このタイプは覚えてしまうしかありませんが、それほど多くはありません。

ウク uk → ウイナ uyna 「～が～を取る」

アシ asi → ロシキ rosiki 「～が～を立てる」

## ステップ 32 「～して」「～しながら」 接続助詞 1

(初級ステップ69参照)

(例文)

1. クユポ ワッカ タ ワ ノイキ オロ オマレ。  
ku=yupo wakka ta **wa** noyki or omare.  
「(私の) 兄さんが水をくんで樽に入れた」
2. ケシト アン コロ フチ ウタラ ケメイキ カネ ウコイタク アイネ イミ カラ  
オケレ。  
kesto an kor huci utar kemeyki **kane** ukoytak **ayne** imi kar okere.  
「お婆さんたちは毎日針仕事をしながらおしゃべりをしてるうちに着物  
をしあげた」
3. レ ポン シタ ヌイヌイセ カネ シノッ。  
re pon sita nuynuyse **kane** sinot.  
「3匹の子犬が追いかけてこしながら遊んでいる」
4. イペ テク オシッパ アン。  
ipe **tek** osippa an.  
「食事をして して (それから) 帰りなさい」
5. クサポ セーター オシケ ワ ポホ ミレ。  
ku=sapo セーター oske **wa** poho mire.  
「(私の) 姉さんはセーターを編んで子供に着せた」

### 「～して」「～しながら」などの表現

接続助詞とは、日本語の「～しながら」「～して」のように、前の文と後の文をつなぐ働きをもつ助詞です。接続助詞には前の文と後の文との時間的な関係（「～しながら～する」など）を表すものや、論理的な関係（「～したので～する」など）を表すものなどがあります。この課では主として時間的な関係を表す接続助詞について取り上げます。

アイヌ語では時間的な関係を表す場合、前の文と後の文が前後関係（「～して～する」）にあるのか、それとも同時的な関係（「～しながら～する」）にあるのかによって表現が区別されます。

「～して～する」のような時間的な前後関係を表す場合には、ワ wa 「～して」やテク tek 「～して（東部の方言）」などが使われます。また、「～し続けてその結果」のような意味を表す場合には、アイネ ayne 「～して」、アヒンネ ahinne 「～して（東部の方言）」などが使われます。

一方、「～しながら～する」のような同時的な関係を表す場合は、コロ kor 「～しながら」、カネ kane 「～しながら（東部の方言）」、カン kan 「～しながら（東部の方言）」などが使われます。

## ステップ 33 「～なので」「～したら」「～しても」 接続助詞 2

(初級ステップ69参照)

(例文)

1. チセクカニス イ クス ホシキノ キクチャナンコロ。  
cise ku=kar rusuy **ksu** hoskino ki ku=ca nankor.  
「家を（私は）建てたいので、先にカヤを（私は）刈ろう」
2. コーヒー エクルス イ チキ エク アツカ (アツカイ) ピリカ。  
コーヒー e=ku rusuy **ciki** e=ku **akka** (akkay) pirka.  
「コーヒーを（君が）飲みたいなら、飲んでもいいよ」
3. モユククヌカニス イ コロカ (コロカイ) クヌカラ アクス キラワ  
イサム。  
moyuk ku=nukar rusuy **korka** (korkay) ku=nukar **akusu** kira wa isam.  
「タヌキを（私は）見たかったけれど、（私が）見たら逃げてしまった」
4. トウアンシタ エンヌカラ コロ メク。  
tuan sita en=nukar **kor** mek.  
「あの犬は私を見ると吠えた」



### 「～なので」「～したら」「～しても」の表現

この課では主として「～なので（原因・理由）」、「～するために（目的）」、「～すると（条件）」、「～しても（譲歩）」、「～したところが（逆接）」などの表現に用いられる接続助詞について取り上げます。

原因・理由の表現にはクス kusu、クシ kus 「～なので」という接続助詞が用いられます。目的の表現にはクニ kuni、クニネ kunine 「～するために」のほか、クス kusu、クシ kus 「～するために」などが用いられます。

「～すると」（条件）にはヤクン yakun、ヤク yak、チキ ciki、チク cik、コロ kor 「～したら、～すると」などが用いられます。また、「～したところ」のような意味を表わす場合にはアクス akusu、アクシ akus という形が用いられます。

譲歩の表現にはアッカ akka、アッカイ akkay 「～しても」、ヒケ hike 「～するのに」などが用いられます。また、逆接の表現にはコロカ korka、コロカイ korkay 「～するけれども」が用いられます。

## ステップ 34 「～まで」「～のように」「～なほど」 接続助詞 3

(例文)

1. エエラムアン パクノ エンヌレ。

e=eramuan **pakno** en=nure.

「君が分かるところまで (私に) 聞かせて」

2. タネモチチ コトム シラン. エタク ヤナテ アン。

tane 餅 ci **kotom** siran. etak yapte an.

「もう餅が焼けたようだよ。さあ取り上げて」

3. クアキニセンピリタネ ネカエ コトム アン。

ku=aki ni senpir ta nep ka e **kotom** an.

「私の弟は木のかげで何か食べているようだ」

4. トウアンクルアナクナ ペウレ クルネ コロカイ エカシ エネネ ポコン  
アンヌカラ。

tuan kur anak na pewre kur ne korkay ekasi ene ne **pokon** an=nukar.

「あの人はまだ若いのに、おじいさんみたいに見える」

### 「～まで」「～のように」「～なほど」などの表現

この課では主として「～するほどに（程度）」、「～するように（推定）」、「～するみたいに（比況）」、「～しないで（否定）」、「～である様子で（状態）」などの表現に用いられる接続助詞について取り上げます。

程度の表現にはカネ kane、カン kan「～するほどに」、パク pak、パクノ pakno「～するまで」という接続助詞が用いられます。また、推定の表現にはコトム kotom「～するように」などが用いられます。比況の表現にはポコン pokon「～するかのよう、～するみたいに」などが用いられます。

また、否定や状態の表現にはノ no「～して」が用いられます。

### 主な接続助詞の一覧

ワ、アイネ wa, ayne	時間的な前後関係「～して」
コロ kor	同時関係「～しながら」
クス kusu	原因・理由の関係「～するので」
クス kusu	目的の関係「～するために」
チキ ciki	条件の関係「～すると」
アッカ(アッカイ) akka(akkay)	譲歩の関係「～しても」
コロカ korka	逆接の関係「～するけれども」
カネ、パク(ノ) kane, pak(no)	程度の関係「～するほど、～するまで」
コトム kotom	推定の関係「～するように」
ポコン pokon	比況の関係「～するかのよう」
ノ no	否定・状態の関係「～して」

## ステップ 35 「～に行く」 場所の表現 1

(例文)

1. 阿寒 エネ パイエアンワトラサンペアヌカン ロク。  
阿寒 ene paye=an wa torasampe a=nukar rok.  
「阿寒に（一緒に）行ってマリモを（一緒に）見よう」
2. レプ タ チヲオユプコロアン。  
rep ta cip oyupu kor an.  
「沖で船が進んでいる」
3. ラ タ リク タ ウコレコロペネヲネア？（ニスネワニシ）  
ra ta rik ta ukorekor pe nep ne a? (nisu newa nis)  
「高い所と低い所で同じ名前を持っているものなんだ？」
4. ウオロ タ ヤ タ ウコレコロペネヲネア？（オシネワホシ）  
wor ta ya ta ukorekor pe nep ne a? (os newa hos)  
「水中と陸地で同じ名前を持っているものなんだ？」
5. ネイ ワ エエクルウェヘ？  
ney wa e=ek ruwe he?  
「どこから（君は）きたの？」

## ～に行く、～の所に行く

アイヌ語では「～に行く」という文を作る際に少し難し事情があります。日本語で「～に行く」動詞を使って文をつくる時、a のようには言えますが、b、c は少しおかしい文です。

- a 学校に行く。(○)
- b 高橋さんに行く。(×) 高橋さんのところに行く。(○)
- c 自転車に行く。(×) 自転車のそばに行く。(○)

「学校」という場所であれば「に行く」を使うことができますが、「高橋さん」という人や「自転車」という物の場合は「に行く」だけでなく「ところ」や「そば」などを補う必要があります。こうした日本語の「～に、～へ」や「～で」にあたる言葉を格助詞と呼びますが、アイヌ語の格助詞も、日本語と同じく場所を表す名詞につきます。

- タ ta 動作の行われる場所・時間、移動を伴う動作の到着点
- エネ ene 動作の到着点、動作を行う方向
- ワ wa 時間、移動を伴う動作の起点

場所を表す名詞は、前後左右高低などの位置や、キム「山（山手）」、ピシ「浜（浜手）」、ヤ「陸」、レツ「沖」などの方位や、空間の大きな区分を指す言葉が多く含まれます。チセ「家」やコタン「村」、モシリ「大地、国」などはややあいまいで、場所のようにも物のようにも言い表されます。また、「札幌」「旭川」のような地名は、方言によっては位置を表す名詞として扱われることがあります。

そのほかの多くの名詞は、たとえばペツ「川」やニタイ「林」など日本語の感覚としては場所のように思える言葉であっても、直接「～に」、「～で」をつけることができません。これらの表現については後のステップで紹介します。

## ステップ 36 「～に行く」 場所の表現 2

(例文)

1. クミチ チセ オシマク エネ オマン マ、ヌサ オッタ オンカミ。  
ku=mici cise **osmak ene** oman wa, **nusa or ta** onkami.  
「私の父は家の背後に行つて、祭壇で拝礼した」
2. イペアン オカケ タ ケーキ アネ ロク。  
ipe=an **okake ta** ケーキ an=e rok.  
「食事をした後にケーキを食べよう」
3. アペ サム タ クホツケワ ポンノ クモコロ。  
ape **sam ta** ku=hokke wa ponno ku=mokor.  
「私は火の側で横になって少し眠つた」
4. ヌプリ ノシキ タ ポロ スンク アシ。  
nupuri **noski ta** poro sunku as.  
「山の真中に大きなエゾマツが立っている」
5. ペツ オレネ ラナアン マ マアン。  
**pet or ene** rap=an wa ma=an.  
「川へおりて、泳ごう」
6. ハンクカチュイ エノツ タ エクワ エンカタ レウ ワアン。  
hankukacuy **en=or ta** ek wa en=ka ta rew wa an.  
「トンボが私の所にきて、私の上にとまっている」

## 位置関係を表すことば

格助詞は「前」、「後」のような位置を表す名詞に付きます（格助詞についてはステップ 40 でも触れます）。したがって、「人」や「川」のような普通名詞には直接格助詞をつけることはできません。そこで、普通名詞に格助詞を付ける場合には、位置名詞を付けて、普通名詞＋位置名詞＋格助詞のように表現します（例：ペツ オッタ pet or ta 「川・のところ・で」）。

位置名詞には一部の普通名詞と同様に概念形と所属形の区別があります。例としては、エトク etok 「前（概念形）」・エトコ etoko 「～の前（所属形）」、オシマク osmak 「後（概念形）」・オシマケ osmake 「～の後（所属形）」、オロ or 「場所（概念形）」・オロ oro 「～の場所（所属形）」などがあります。

また、位置名詞には目的格の人称接辞が付きます。

## 主な位置名詞の一覧

カ、カシ、カシケ ka, kasi, kasike	(接触しているものの) 上
エンカ、エンカシ、エンカシケ enka, enkasi, enkasike	(離れているものの) 上
クルカ、クルカシ、クルカシケ kurka, kurkasi, kurkasike	(広がりのあるものの) 上
チョロポク、チョロポキ、チョロポキケ corpok, corpoki, corpokike	下
エトク、エトコ、エトコホ etok, etoko, etokoho	(動いているものの) 前、(時間的な) 前
コッチャ、コッチャケ kotca, kotcake	(静止しているものの) 前
オカ、オカケ oka, okake	(動いているものの) 後
オシマク、オシマ osmak, osma	(静止しているものの) 後
オロ、オロ or, oro	ところ、中
オシケ oske	(中空のもの) 中
トウム、トウム、トウムケ tum, tumu, tumke	(中空ではないもの) 中
ソイ、ソイケ soy, soyke	(家の) 外
サム、サマ、サマケ sam, sama, samake	そば、傍ら

## 「オロ」の使い方

「前」、「後」のような位置名詞のなかで、オロ or 「場所」という言葉は、「人」、「川」のような普通名詞の後でよく用いられます。例としてはオッタ or ta 「～に、～で」、オレネ or ene 「～へ」、オロワ or wa 「～から」などの表現があります。

## ステップ 37 「～の上を」「～の中に」 場所に関わる動詞

(例文)

1. プクサクフンパワ、ワッカトゥラノス オロクオマレ。  
pukusa ku=humpa wa, wakka turano **su or ku=omare**.  
「ギョウジャンニクを（私は）刻んで、水といっしょに鍋に（私は）入れた」
2. ポロヒコーキコタン エンカクシワオマン。  
poro 飛行機 kotan **enka kus** wa oman.  
「大きな飛行機が村の上を通りすぎて行った」
3. ルアンペアシワ、トイオルンペウサピリカナンコロ。  
ruanpe as wa, **toy or un** pe usa pirka nankor.  
「雨が降って、土の中にあるもの（作物）もよくなるでしょう」
4. タントメアンマ ノイキオシケオワツカルプシ。  
tanto mean wa **noyki oske o** wakka rupu.  
「今日は寒くて樽の中にある水が凍っている」



### 場所を目的語にする動詞

動詞の中には「前」、「後」のような場所を表す名詞を目的語としてとる動詞があります。その多くは対象が存在することを表す動詞です。例としては、ウン un 「～にある、いる」、ウシ us 「～に付く」、オマ oma 「～に入る」、オ o 「～に位置する、入る」などの動詞があります。

#### 主な場所目的語動詞の一覧

オマ	oma	～（場所）にある、～（場所）におさまる
オ	o	～（場所）にある、～（場所）に入る
ウン	un	～（場所）にある、いる
ウシ	us	～（場所）に付く
オッ	ot	～（場所）に掛かる
クシ	kus	～（場所）を通る

## ステップ 38 「私のおじいさん」「私のおばあさん」 親族名称

(初級ステップ74参照)

(例文)

1. クコロ フチ ケメイキ エアシカイ。  
**ku=kor huci kemeyki easkay.**  
「私のおばあさんは針仕事が上手です」
2. フチ、シキヒ マカ チキ ピリカ。  
**huci, sikihi maka ciki pirka.**  
「おばあちゃん、目を開けるといいよ」
3. クミチ シサム ネ コロカ(コロカイ) アイヌ イタク カ エラムアン。  
**ku=mici sisam ne korka (korkay) aynu itak ka eramuan.**  
「父は和人ですがアイヌ語もわかります」
4. ミチ、アイヌ イタク エネチャココワ エンコレ。  
**mici, aynu itak en=ecakoko wa en=kore.**  
「とうさん、アイヌ語を教えてください」

### ク～とクコロ～ (所属形と概念形)

家族の言い方には、体の一部のように名詞を「～の○○」という形(所属形)に変化させて人称接辞をつけるタイプと、もとの形(概念形)のまま「人称接辞+kor○○」とするタイプがあります。美幌方言では、「おじいさん」「おばあさん」は「人称接辞+kor○○」の形で表現されるのが一般的なようです。一方「父」「母」や「兄」「姉」、「弟」「妹」などは「人称接辞+名詞(所属形)」で表現されるようです。

親族名称は方言差も大きく、どのように使えばいいのかまだ明らかではない場合もあります。

## 呼びかけのとき

親族の名称は呼びかけにも用いられます。美幌方言については不明な点が多いのでここでは他方言（十勝方言その他）の例を基に説明します。

「祖父」「祖母」、「父」「母」などについては、一般的に人称接辞をつけない形が使われます。一方、「兄」や「姉」は、クユポ ku=yupo 「にいさん」、クサポ ku=sapo 「ねえさん」などのように人称接辞をつけた形で呼びかけるようです。

## 親族名称一覧

おじいさん	エカシ ekasi	おとうと	アク、アキ ak, aki
おばあさん	フチ huci	おじさん	アチャポ acapo
		おばさん	ウナラペ unarpe
おとうさん	ミチ mici	こども	ポ po
おかあさん	ハポ hapo	むすこ	オックアイポ okkaypo
		むすめ	マツネポ matnepo
		夫	オク（ホク） oku (hoku)
にいさん	ユポ yupo	妻	マツ、マチ mat, maci
		婿	コク、ココ kok, koko
ねえさん	サポ sapo	嫁	コシマツ、コシマチ kosmat, kosmaci
		おい	カラク karku
いもうと(姉から)	マタク、マタキ matak, matak	めい	マツカラク matkarku
いもうと(兄から)	トウレシ、トウレシ tures, turesi	まご	ミツポ mitpo

## ステップ 39 いろいろな動詞 自動詞・他動詞・複他動詞

(例文)

1. イルヲ レタラ。  
irup **retar**.  
「でんぷんが白い」
2. ヤラペオロマヲ チシ。  
yarpeoromap **cis**.  
「赤ん坊が泣く」
3. メノコ エカチ ムックル レクテ。  
menoko ekaci mukkur **rekte**.  
「女の子が口琴を鳴らす」
4. ウナラペ ケトウシ セ。  
unarpe ketusi **se**.  
「おばさんがカバンを背負う」
5. ムックル クレクテ。  
mukkur **ku=rekte**.  
「口琴を (私が) 鳴らす」
6. ウナラペ オクフ ケトウシ セレ。  
unarpe okuhu ketusi **sere**.  
「おばさんが夫にカバンを背負わせる」

### 自動詞 (1 項動詞)

これまでのステップでも自動詞や他動詞という言葉が出てきました。これらの違いは、簡単に言えばいくつの名詞と結びついて文として落ちつくかということです。動詞が名詞と結びつくことを、文法解説では「動詞が名詞を取る」と表現することもあります。自動詞は1つの名詞と結びつき、この名詞が主語(動作を行うもの)になります。

チピチピフ ホッケ。cipicipip hotke. 「キリギリスが横になる」  
イトウナフ モンライケ。itunap monrayke. 「ありが働く」

この例のように、自動詞の前には空の箱が1つあって「が働く」のような格好になっているとイメージしてください。この箱には主語にあたる名詞が入ります。このように1つの言葉と結びつくことから「1項動詞」という呼び方もあります。重要なポイントとして、主語が複数のときは人称接辞が後ろにつくことを学びました。ステップ16、17を確認してください。

### 他動詞 (2 項動詞)

他動詞は主語の他にもう1つの名詞と結びつき、これが目的語(動作の対象になるもの)になります。

チピチピフ シノッチャキ。cipicipip sinotca ki. 「キリギリスが歌を歌う」  
イトウナフ ニカオブルラ。itunap nikaop rura. 「ありが木の実を運ぶ」

このように、他動詞の前には、主語の箱に加えてもうひとつ目的語の箱があるとイメージしてください。箱が2つあるので、「2項動詞」と呼ぶこともあります。他動詞と自動詞の区別にそれほどこだわらない言語もありますが、アイヌ語の場合は両者の区別がかなり厳密に守られます。

日本語では、主語に「～は、～が」を、目的語は「～を、～に」といった助詞をつけて表しますが、アイヌ語では助詞をいりません。主語・目的語の順に並ぶのが普通ですが、そうになっていなくとも、どちらが主語・目的語かは話の流れでわかります。

### 複他動詞 (3 項動詞)

主語、目的語の他にもう1つ目的語を取る動詞があります。これを複他動詞(3項動詞)と呼びます。人称接辞のつき方は他動詞と同じです。

エカシ ネ りんご チカフ エレ。ekasi ne りんご cikap ere.  
「お爺さんはそのりんごを鳥に食べさせた」

## ステップ40 「～へ」「～から」「～でもって」 いろいろな格助詞

(例文)

1. クオシピエトコ タ、ユウビンキョク エネ クオマン。  
ku=osipi etoko **ta**, 郵便局 **ene** ku=oman.  
「(私が) 帰る前に、郵便局に (私が) 行く」
2. ル トゥラシ トウ アチャポ アプカシコロアン。  
ru **turasi** tu acapo apkas kor an.  
「道にそって 2人のおじさんが歩いている」
3. エンピツ アニ パシクル ノカヌイエ。  
鉛筆 **ani** paskur noka nuye.  
「鉛筆でカラスの絵を描いた」
4. タン チェフカフケレ ネ カラワ エンコレ。  
tan cepkap ker **ne** kar wa en=kore.  
「この魚皮を靴に作ってください」
5. トオレフワ フンペ エクワ オシ レブンカムイ カエク。  
too rep **wa** humpe ek wa **osi** repunkamuy ka ek.  
「ずっと沖の方からクジラがやって来ていてあとからシャチもやって来  
ている」

## 「～へ」「～から」「～でもって」などの表現

日本語の「て、に、を、は」のように、名詞の後に置かれてその名詞の文法的な役割を示す言葉を格助詞といいます。代表的な格助詞（後置詞）を以下にあげます。

タ	ta	～に、～で（場所・到着点）
ウン	un	～へ（方向）
ペカ	peka	～で、～を（広い場所）
ワ	wa	～から（起点）
トゥラシ	turasi	～に沿って上流へ
オシ	osi	～の後から
トゥラ	tura	～と共に
アニ	ani	～で、～を用いて（道具・手段）
ネ	ne	～として、～に

## ステップ41 「～も」「～だけ」 いろいろな副助詞

(例文)

- シケレペ カ ニヌム カ シカンナツキ。  
sikerpe **ka** ninum **ka** sikannatki.  
「キハダの実もクルミの実も丸い」
- ソンパヌム アナクネ オモ (ソモ) シカンナツキ。  
sonpa num **anakne** (s) omo sikannatki.  
「ソバの実は丸くない」
- シュークリーム パテク クエルスイ。  
シュークリーム **patek** ku=e rusuy.  
「シュークリームだけ食べたい」
- ネンシノッチャキハウエ タ アン？  
nen sinotcaki hawe **ta** an?  
「いったいだれが歌っているんだ？」
- 義理チョコ ボカイ エコレアンナ。  
義理チョコ **pokay** e=kore=an na.  
「義理チョコだけでも (私が君に) あげましょう」



## 「～も」「～だけ」などの表現

日本語の「～も」「～だけ」のように、他の単語の後に置かれて、その単語を取り立てる役割をもつ言葉を副助詞といいます。主な副助詞としては以下のようなものがあります。

アナク(ネ)	anak(ne)	～は (主題)
エネ	ene	～でも (例示)
ウサ	usa	～など (列挙)
カ	ka	～も (追加)
パテク	patek	～ばかり (限定)
パク(ノ)	pak(no)	～まで (限度)
ポカイ	pokay	～だけでも (限定)
タ	ta	～こそ (疑問強調)
エンタ	enta	～こそ (疑問強調)
エシタ	esta	～こそ (強調)

## ステップ42 「～かい?」「～だよ」文の終わりにつく言葉

(初級ステップ75参照)

(例文)

1. ウナラペ ス ポブナ。ス ヤブテ アン。  
unarpe su pop **na**. su yapte **an**.  
「(私の) おばさん鍋がわいたよ。鍋をあげてくださいな」
2. ナフルウェネ ワ。ナ ポンノ スイエ チキ ピリカ。  
na hu ruwe ne **wa**. na ponno suye **ciki** pirka.  
「まだ生だよ。もう少し煮なさいね」
3. ペカンペ アネ アムキラ?  
pekanpe an=e amkir **a**?  
「ペカンペを (あなたは) 召しあがったことがありますか?」
4. クルマアノワ スーパー エネ パイエアン ロク。  
車 an=o wa スーパー ene paye=**an rok**.  
「車に (一緒に) 乗ってスーパーに (一緒に) 行こうか」

## 「～かい?」「～だよ」などの表現

「いい天気だね」の「ね」、「いいか?」「いいよ」の「か」や「よ」のように、文の最後におかれて、疑問や命令、確認などの意味を表わす言葉を終助詞といいます。主な終助詞としては以下のようなものがあります。

ナ	na	～だぞ（聞き手への促し）
ワ	wa	～よ（質問に対する答え）
アン	an	～しなさい（複数・丁寧な命令）
ロク	rok	～しよう（勧誘）
ア	a	～か（疑問）
ヘ	he	～か（疑問）

なお、アン an 「～しなさい」は複数形の動詞とともに使われ、2人以上の相手への命令、または丁寧な命令を表します（例：アラキ アン arki an 「来なさい」）。また、最後のヘ he 「～か」は主に名詞の後で用いられます。

## ステップ43 「～した」「～しすぎた」 いろいろな助動詞

(例文)

1. トゥアンヌプリ クコロ エカシ ノミ ア ヌプリ ネ ナンコロ.  
tuan nupuri ku=kor ekasi nomi a nupuri ne nankor.  
「あの山は私のおじいさんがいのっていた山だろう」
2. エンシュウリツ オプッタ クオイラ クシキ.  
円周率 oputta ku=oyra kuski.  
「円周率をすべて（私は）忘れてしまいそうだ」
3. タネ オヌマニペ チエ オケレ.  
tane onumanipe ci=e okere.  
「もう夕食を（私たちは）食べ終えました」
4. ネ オルシペ アナク クヌ エトランネ.  
ne oruspe anak ku=nu etoranne.  
「その話は聞く気がしないよ」
5. ユキマツリ エチヌカン ルス(ルスイ) クス エチアラキ ルウェ ヘ？  
雪まつり eci=nukar rusu (rusuy) kusu eci=arki ruwe he?  
「雪まつりを（あなたたちは）見たくて来たのですか？」

## 「～したい」「～できる」などの表現

「～したい」「～できる」のように、動詞の後におかれて、時間、推量、意志、能力などの意味を表わす言葉を助動詞といいます。主な助動詞としては、以下のようなものがあります。

ア	a	～した (完了)
ロク	rok	～した (完了・複数形)
オケレ	okere	～し終える
ナンコロ	nankor	～するだろう (推量)
ルス (ルスイ)	rusu (rusuy)	～したい (願望)
エアシカイ	easkay	～できる
エアイカブ	eaykap	～できない
クシキ	kuski	～しようとする
エトランネ	etoranne	～する気がしない

また、動詞と「～した」を表すア a を繰り返すことで「何度もする」「～し続ける」という意味を表わすことができます。

例：トウシテクアナ トウシテクアナ tustek=an a tustek=an a  
「私たちは黙り続けて」

## なぞなぞの答え

ステップ 6	①	イクシペ	ikuspe	柱
	②	ウェンムカラ	wenmukar	よくない斧
ステップ26	①	タラ	tar	背負い縄
	②	エチンチンパ	ecincinpa	切り株

「びほろのアイヌご」「初級アイヌ語－美幌－」「中級アイヌ語－美幌－」

単語リスト

\*略語一覧

名：名詞、代名：代名詞、完動：完全動詞、自：自動詞、他：他動詞、副：副詞、連体：連体詞、疑問：疑問詞、間投：間投詞、接続：接続詞、助動：助動詞、格助：格助詞、副助：副助詞、終助：終助詞、接助：接続助詞、人接：人称接辞

ア a ～した(過去)【助動】	アトウイ atuy 海【名】
ア a 座る【自】(ロク rok の単数形)	アトウイイナウ atuy'inaw タコ【名】
ア a= (聞き手を含む) 私たちが、あなたが、誰かが【人接】(他動詞につく形)	アトウボキ atupoki 脇の下【名】(アトウボク atupok の所属形)
アイヌ aynu 人間【名】	アトウボキヒ atupokihhi 脇の下【名】(アトウボク atupok の所属形)
アイヌイタク aynuitak アイヌ語【名】	アトウボク atupok 脇の下【名】
アイヌコロ aynukor 大事にする【他】	アナク anak ～は【副助】
アイネ ayne ～して【接助】	アナクネ anakne ～は【副助】
アウ aw 隣り【名】	アニ ani ～と(引用)【副助】
アウフ awup 入る【自】(アウン awun の複数形)	アニ ani ～を用いて【格助】
アウン awun 入る【自】(アウフ awup の単数形)	アノカイ anokay (聞き手を含む) 私たち、あなた【代名】
アキ aki 弟【名】(アク ak の所属形)	アパッテ apatte 釣りをする【自】
アク ak ～と【副助】	アパッポ apappo 花【名】
アク ak 弟【名】	アッカシ apkas 歩く【自】
アクス akusu ～すると【接助】	アプニタラ apunitara おだやかである【自】
アシ=as (聞き手を含まない) 私たちが【人接】(自動詞につく形)	アペ ape 火【名】
アシ as 立つ【自】(ロシキ rosiki の単数形)	アペアレ apeare 火をたく【自】
アシ asi 立てる【他】(ロシキ rosiki の単数形)	アベウチエカシ apeuciekasi (男性の) 火の神【名】
アシカイ askay 上手である【自】	アベウチフチ apeucihuci (女性の) 火の神【名】
アシクネ asikne 五つの【連体】	アペクル apekur 火にあたる【自】
アシケベチ askepeci 指【名】(アシケベツ askepet の所属形)	アミ ami 爪【名】(アム am の所属形)
アシケベツ askepet 指【名】	アミヒ amihhi 爪【名】(アム am の所属形)
アシリ asir 新しい【自】	アム am 爪【名】
アシンノ asinno 新しく【副】	アムキリ amkir ～したことがある【他】
アチャポ acapo おじ(伯父、叔父)【名】	アラ ar 片側の【連体】
アッカ(イ) akka(y) ～しても【接助】	アラカ arka 痛い【自】
アッカリ akkari 越える【他】、～より【副】	アラカシ arkas 片小屋【名】
アッケテク akketek ホタテガイ【名】	アラキ arki 来る【自】(エク ek の複数形)
アットウシ attus アットウシ(男性の着物)【名】	アラワン arwan 七つの【連体】
	アリ ari ～と(引用)【副助】

アリキキ arikiki 一生懸命にする【自】  
 アリキキノ arikikino 一生懸命に【副】  
 アレ are ～に火をつける【他】  
 アン=an (聞き手を含む) 私たち、あなたが、誰かが【人接】(自動詞につく形)  
 アン an ある、いる【自】(オカイ okay の単数形)  
 アン an= (聞き手を含む) 私たちが、あなたが、誰かが【人接】(他動詞につく形)  
 アンクフ ankup 飲み物【名】  
 アンチカラ ancikar 晩【名】  
 アンノシキ annoski 真夜中【名】  
 アンバ anpa 持つ【他】(アニ ani の複数形)  
 イ= (聞き手を含む) 私たちを(に)、誰かを(に)【人接】  
 イエ ye 言う【他】  
 イキ iki する【自】  
 イキア ikia その【連体】  
 イク iku 酒を飲む【自】  
 イクシベ ikuspe 柱【名】  
 イクパスイ ikupasuy 捧酒籠【名】  
 イケ ike ～なのに【接助】  
 イサ isa 医者【名】  
 イサム isam 無い【自】  
 イシトマ isitoma 恐ろしい【自】  
 イソボ isopo ウサギ【名】  
 イタ ita 板【名】  
 イタオマチヲ itaomacip 板綴舟【名】  
 イタク itak 話す【自】  
 イッケウ ikkew 腰【名】  
 イッケウエ ikkewe 腰【名】(イッケウ ikkew の所属形)  
 イッケウエヘ ikkewehe 腰【名】(イッケウ ikkew の所属形)  
 イッソロレ issorore こんにちは【間投】  
 イナウ inaw 木幣【名】  
 イナウケ inawke 木幣を削る【名】  
 イナウル inawru 削りかけ【名】  
 イヌ inu 聞く【自】  
 イネ ine 四つの【名】  
 イビシキ ipiski 数える【自】  
 イフ ip (音節を整える言葉)【虚辞】  
 イペ ipe 食べる【自】、食物、食事【名】  
 イベルス(イ) iperusu(y) 空腹である【自】  
 イベルスイカムイ iperusuykamuy イベルスイカムイ(神の名前)【名】  
 イマキ imaki 歯【名】(イマク imak の所属形)  
 イマク imak 歯【名】  
 イミ imi 着物【名】  
 イミカクシベ imikakuspe 上着【名】  
 イモ imo イモ【名】  
 イヤイライケレ iyayraykere ありがとう【間投】  
 イヨッタ iyotta 最も【副】  
 イラマンテ iramante 狩りをする【自】  
 イラム iram (驚いた時の表現)【間投】  
 イランカラフテ irankarapte こんにちは【間投】  
 イリワク irwak 兄弟【名】  
 イルカイ irukay しばらく【副】  
 イルシカ iruska 怒る【自】  
 イルプ irup 澱粉【名】  
 イワニ iwani アオダモ【名】  
 イワン iwan 六つの【連体】  
 イワンケ iwanke 元気である【自】  
 インカラ inkar 見る【自】  
 インキアン inkian どちらの【疑問】  
 インネ inne 多い【自】  
 ウイナ uyna 取る【他】(ウク uk の複数形)  
 ウエカラバ uekarpa 集る【自】  
 ウエサイネ uesayne 輪になる【自】  
 ウエニマキ wenimaki 悪い歯【名】  
 ウエネウサラ uenewsar 語り合う【自】  
 ウエン wen 悪い【自】  
 ウエンノ wenne ひどく【副】  
 ウエンムカラ wenmukar よくない斧【名】  
 ウオロ wor 水【水】  
 ウカンバ ukanpa 難しい【自】  
 ウク uk 取る【他】(ウイナ uyna の単数形)  
 ウ克蘭 ukuran 昨晚【名】  
 ウコイキレ ukoykire 争わせる【他】  
 ウコイタク ukoytak 話しあう【自】  
 ウコウトウル ukouturu 互いの間【名】



ウコボイエ ukopoye 混ぜる【他】  
 ウコレコロ ukorekor 同じ名前を持つ【白】  
 ウサ usa 〜も【副助】  
 ウシ us へに付いている、〜にある、いる【他】  
 ウシ us 消える【白】  
 ウシカ uska 消す【他】  
 ウシケ uske 場所【名】  
 ウタラ utar 人々、〜たち【名】  
 ウタリ utari 人々、〜たち【名】(ウタラ utar の所属形)  
 ウトウシマク utusmak 競争する【白】  
 ウトウラノ uturano 一緒に【副】  
 ウナラベ unarpe おば(叔母、伯母)【名】  
 ウヌカラ unukar 会う【白】  
 ウノシバ unospa 互いを追いかける【白】  
 ウバシ upas 雪【名】  
 ウツソロ upsor 内部【名】  
 ウポポ upopo 歌う【白】  
 ウライエ uraye 洗う【白】(ウライバ uraypa の単数形)  
 ウライバ uraypa 洗う【白】(ウライエ uraye の複数形)  
 ウランラン uranran 霧がかかる【白】  
 ウレベチ urepeci 足の指【名】(ウレベツ urepet の所属形)  
 ウレベツ urepet 足の指【名】  
 ウン un へにある、いる【他】  
 ウン un へへ【格助】  
 ウン un 【終助】  
 ウン un= 私たちを、私たちに【人接】  
 エ e 食べる【他】  
 エ e= あなたが【人接】  
 エ e= あなたを、あなたに【人接】  
 エアイカフ eaykap できない【他】  
 エアク eak 射る【他】  
 エアシカイ easkay できる【他】  
 エアシクネホツ easiknehot 百【名】  
 エアニ eani あなた【代名】  
 エイコシ eykos あまりに【副】  
 エイコシテッコ eykostekko あまりに【副】  
 エイワンケ eywanke 用いる【他】  
 エオリパク eoripak 敬う【他】  
 エカシ ekasi おじいさん【名】  
 エカチ ekaci 子供【名】  
 エカッタラ ekattar 子供たち【名】  
 エカラ ekar へで作る【他】  
 エキムン ekimun 山へ【副】  
 エキロラン ekiroran へで楽しくなる【他】  
 エク ek 来る【白】(アラキ arki の単数形)  
 エケウトウムシノチタラ ekewtumsinocitara へで心が楽しくなる【他】  
 エシタン estan 探す【他】  
 エシノツ esinot へで遊ぶ【他】  
 エシン esin さつき【副】  
 エソン eson 外へ【副】  
 エタク etak さあ【間投】  
 エチ eci= あなたたちが【人接】  
 エチ eci= あなたたちを、あなたたちに【人接】  
 エチウカ eciwka 待つ【他】  
 エチオカイ eciokay あななたち【代名】  
 エチャココ eakoko 教える【他】  
 エチンケ ecinke カメ【名】  
 エチンチンパ ecincinpa 切り株【名】  
 エテツケ etekke 決して〜するな【副】  
 エトウ etu 鼻【名】  
 エトウク etuk 突き出る【白】  
 エトウフ etuhu 鼻【名】(エトウ etu の所属形)  
 エトウプイ etupuy 鼻の穴【名】  
 エトウプイエへ etupuyehe 鼻の穴【名】(エトウプイ etupuy の所属形)  
 エトウン etun 借りる【他】  
 エトク etok (動いているものの)前、(時間的な)前【名】  
 エトコ etoko (動いているものの)前、(時間的な)前【名】  
 (エトク etok の所属形)  
 エトランネ etoranne へするのを嫌がる【他】  
 エトロ etor 鈴【名】  
 エネ ene へへ【格助】  
 エネ ene このように【副】  
 エパウシ epausi 頭にかぶる【他】  
 エピラサ epirasa 咲く、開く【白】  
 エブンキネ epunkine 守る【他】  
 エペレ eper 小熊【名】

エペレイ eper'ay 花矢【名】  
 エミナ emina 笑う【他】  
 エムシ emus 刀【名】  
 エモコロ emokor ～で眠る【他】  
 エラマス eramasu 好む【他】  
 エラマン eraman 知る、理解する【他】  
 エラムアン eramuan 知る、理解する【他】  
 エラムシカレ eramuskare 知らない、～したことがない【他】  
 エラムトウイ eramutuy 驚く【他】  
 エレ ere 食べさせる【他】  
 エン en= 私を、私に【人接】  
 エンカ enka (離れた)上【名】  
 エンコタ enkota 早く【副】  
 オオ ～に入る、～にある【他】  
 オアシルン oasisun 留守番をする【自】  
 オアリスアム oararisam まったく無い【自】  
 オイラ oyra 忘れる【他】  
 オウカラリ oukarari ～のまわりで【副】  
 オカ oka (動いているものの)後、(時間的な)後【名】  
 オカイ okay ある、いる【自】(アン an の複数形)  
 オカケ okake (動いているものの)後、(時間的な)後【名】(オカ oka の所属形)  
 オカンパ okanpa つかむ【他】  
 オク oku 夫【名】  
 オクフ okuhu 夫【名】(オク oku の所属形)  
 オケレ okere 終える【他】(オケレバ okerpa の単数形)  
 オケレバ okerpa 終える【他】(オケレ okere の複数形)  
 オシ os 雌のサケ【名】  
 オシ osi ～の後から【副】  
 オシケ oske 中【名】  
 オシッパ osippa 戻る【自】(オシピ osipi の複数形)  
 オシピ osipi 戻る【自】(オシッパ osippa の単数形)  
 オシマ osma ぶつかる【他動】  
 オシマク osmak (静止しているものの)後【名】  
 オシマケ osmake (静止しているものの)後【名】(オシマク osmak の所属形)  
 オスラ osura 捨てる、投げ出す【他】(オスルバ osurpa の単数形)  
 オスルバ osurpa 捨てる、投げ出す【他】(オスラ osura の複数形)  
 オソロ osor 尻【名】  
 オソロ osoro 尻【名】(オソロ osor の所属形)  
 オタ ota 砂【名】  
 オット ot ～に(集団で)ある、いる【他】  
 オッカヨ okkayo 男性【名】  
 オトウイパカラ otuypakar 呼ぶ【他】  
 オトウワシ otuwasi 頼りにする【他】  
 オトピ otopi 髪の毛【名】(オトッオト op の所属形)  
 オトピヒ otopihi 髪の毛【名】(オトッオト op の所属形)  
 オトッオト otop 髪の毛【名】  
 オヌマニペ onumanipe 夕食【名】  
 オパタッチェ opatacce おながが鳴る【自】  
 オプッタ oputta すべて【副】  
 オプッタノ oputtano すべてに【副】  
 オプニ opuni 起きる【自】(オプンバ opunpa の単数形)  
 オプンバ opunpa 起きる【自】(オプニ opuni の複数形)  
 オマナン omanan 歩き回る【自】(パイェカイ payekay の単数形)  
 オマッオマ omap 可愛がる【他】  
 オマレ omare 入れる【他】  
 オマン oman 行く【自】  
 オマン oman 行く【自】(パイェ paye の単数形)  
 オムケカラ omkekar 風邪をひく【自】  
 オモ omo (否定の表現)【副】  
 オヤバ oyapa 来年【名】  
 オユッパ oyuppa 飛ぶ、走る【自】(オユブ oyupu の複数形)  
 オユブ oyupu 飛ぶ、走る【自】(オユッパの単数形)  
 オルシベ oruspe 話【名】  
 オレパシ orepasi 沖から【副】  
 オロ or ところ、中【名】  
 オロ oro ところ、中【名】(オロ or の所属形)  
 オンカミ onkami 拝礼する【自】  
 オンタロ ontaro 樽【名】  
 オンネ onne 大きい【自】  
 オンネ onne 年老いる【自】  
 カ ka ～か【終助】

カ ka ～も【副助】  
 カ ka 糸【名】  
 カ ka 上【名】  
 カイ kay ～も【副助】  
 カイ kay 背負う【他】  
 カエカ kaeka 糸を作る【自】  
 カシケ kasike 上【名】(カ ka の所属形)  
 カシケ kaske 雪はねをする【自】  
 カシケツ kaskep 雪はね【名】  
 カシパ kasper ～しすぎる【助動】(カス kasu の複数形)  
 カス kasu ～しすぎる【助動】(カシパ kasper の単数形)  
 カスイ kasuy 手伝う【他】  
 カツケマツ katkemat 婦人【名】  
 カネ kane ～して【接助】～するほど【助動】～であるほど【副助】  
 カベウ kapew カモメ【名】  
 カムイ kamuy クマ【名】  
 カムイ kamuy 神【名】  
 カラ kar 作る【他】  
 カラク karku おい【名】  
 カルシ karus キノコ【名】  
 カンナ kanna また【副】  
 キ ki する【他】  
 キ ki 萱【名】  
 キサラ kisar 耳【名】  
 キサラ kisara 耳【名】(キサラ kisar の所属形)  
 キサラハ kisaraha 耳【名】(キサラ kisar の所属形)  
 キサルンベ kisarunpe 耳飾り【名】  
 キナ kina 野草、ガマ【名】  
 キナカラ kinakar 山菜をとる【自】  
 キヌイケシ kip nuykes 助ける【他】  
 キム kim 山【名】  
 キムンカムイ kimunkamuy クマ【名】  
 キヤイ kiyay 光り【名】  
 キヤンネボ kiyannepo 年長の子【名】  
 キラ kira 逃げる【自】  
 ク ku 飲む【他】  
 ク ku= 私が【人接】  
 クアニ kuani 私【代名】  
 クシ kus ～なので、～するために【接助】  
 クシキ kuski ～しようとする【助動】  
 クス kusu ～なので、～するために【接助】  
 クスウェプ kusuwep キジバト【名】  
 クニ kuni ～するように【接助】～するべきである【助動】～すべきこと【名】  
 クババ kupapa かみつく【他】  
 クル kur 人、影【名】  
 クレ kure 飲ませる【他】  
 クンネ kunne 黒い【自】  
 クンネワノ kunnewano 朝【副】  
 ケ ke それ(ものを渡す時の表現)【間投】  
 ケイトウム keytum 心【名】  
 ケウエリ keweri 背が高い【名】  
 ケシト kesto 毎日【名】  
 ケトウシ ketus ケトウシ(女性の物入れ)【名】  
 ケトウシ ketusi ケトウシ(女性の物入れ)【名】  
 ケナシ kenas 林【名】  
 ケメイキ kemeyki 針仕事をする【自】  
 ケラアン keraan おいしい【自】  
 ケレ ker 履物【名】  
 コイキ koyki 捕る【他】  
 コエク koek ～に来る【他】  
 コオンカミ koonkami ～に拝礼する【他】  
 コシネウエ kosinewe ～に訪問する【他】  
 コシレバ kosirepa ～に着く【他】  
 コソソテ kosonte 小袖、着物【名】  
 コタヌ kotanu 村【名】(コタン kotan の所属形)  
 コタン kotan 村【名】  
 コッカ kokka 膝【名】  
 コッカバケ kokkapake 膝頭【名】  
 コッチャ kotca (静止しているものの)前【名】  
 コッチャケ kotcake (静止しているものの)前【名】(コッチャ kotca の所属形)  
 コトム kotom ～するように【接助】  
 コパッ kopak ～の方【名】  
 コレ kore 与える、くれる【他】  
 コロ kor ～しながら、～すると【接助】  
 コロ kor 持つ【他】

コロカ korka けれども【接助】  
 コロカイ korkay けれども【接助】  
 コンチ konci 帽子【名】  
 サク sak 夏【名】  
 サク sak 欠く【他】  
 サケ sake 酒【名】  
 サツケ satke 乾かす【他】  
 サツチェフ satcep 干し魚【名】  
 サフ sap 下る【自】(サン san の複数形)  
 サツケ sapke 味見する【他】  
 サフテ sapte 出す【他】(サンケ sanke の複数形)  
 サボ sapo 姉【名】  
 サマ sama そば、傍ら【名】(サム sam の所属形)  
 サム sam そば、傍ら【名】  
 サロレントリ saroruntori タンチョウヅル【名】  
 サン san 下る【自】(サフ sap の単数形)  
 サンケ sanke 出す【他】(サフテ sapte の単数形)  
 シアマム siamam 米【名】  
 シオイナ sioyna 尊い【自】  
 シカンナツキ sikannatki 円い【自】  
 シキ siki 目【名】(シク sik の所属形)  
 シキヒ sikihi 目【名】(シク sik の所属形)  
 シク sik 一杯である【自】  
 シク sik 目【名】  
 シクオ sik'o 生まれる【自】  
 シケ sike 荷物【名】  
 シケトク siketok 目の前【名】  
 シケレベ sikerpe キハダの実【名】  
 シコ siko 生まれる【自】  
 シコツベツ sikotpet 千歳川(地名)【名】  
 シコボフ sikopop 錆びる【自】  
 シサム sisam 和人【名】  
 シタ sita 犬【名】  
 シツカシマ sikkasma 見守る【他】  
 シットウライヌ sitturaynu 道に迷う【自】  
 シットツケウ sittokkew ひじ【名】  
 シットツケウエ sittokkewe ひじ【名】(シットク sittok の所属形)  
 シト sito 団子【名】  
 シトゥリ situri 伸びる【自】  
 シニ sini 休む【自】  
 シヌイナク sinuynak 隠れる【自】  
 シネ sine 一つの【連体】  
 シネウエ sinewe 訪問する【自】  
 シネウエクル sinewekur 来客【名】  
 シネフ sinep 一つ、一個【名】  
 シネベサン sinepesan 九つの【連体】  
 シネンネ sinenne 一人で【副】  
 シノ sino まことに【副】  
 シノツ sinot 遊ぶ【自】  
 シノツチャ sinotca (即興の)歌【自】  
 シノツチャキ sinotcaki 歌う【自】  
 シポフ sipop 箱【名】  
 シラン siran (そのような)様子である【完動】  
 シリ sir (目に見える)様子【名】  
 シリ siri (目に見える)様子【名】(シリ sir の所属形)  
 シリキ sirki (そのような)様子をしている【自】  
 シリキ sirki 模様【名】  
 シリクンネ sirkunne 夜になる【完動】  
 シリセセク sirsesek 暑い【完動】  
 シリピリカ sirpirka 天気が良い【完動】  
 シンキ sinki 疲れる【自】  
 シントコ sintoko 行器【名】  
 シンラツパ sinrappa 先祖供養をする【自】  
 シンリツ sinrit 木の根、先祖【名】  
 ス su 鍋【名】  
 スイ suy 回数【名】  
 スイ suy 穴【名】  
 スイ suy 再び、また【副】  
 スイエ suye 煮る【他】(スイパ suypa の単数形)  
 スイエ suye 揺らす【他】(スイパ suypa の単数形)  
 スイパ suypa 煮る【他】(スイエ suye の複数形)  
 スイパ suypa 揺らす【他】(スイエ suye の複数形)  
 スネ sune たいまつ【名】  
 スミアツチェフ sumiatcep ワカサギ【名】  
 スムタク sumtak 脂のかたまり【名】  
 スワスワ suwasuwa スワスワ(不明)【名】  
 スンク sunku エゾマツ【名】

セ se 背負う【他】  
 セイ sey 貝【名】  
 セコロ sekor ～と(引用)【副助】  
 セセッカコロカムイ sesekkakorkamuy 温泉の神【名】  
 セツ set 檻【名】  
 セトウル setur 背中【名】  
 セトウル seturu 背中【名】(セトウル setur の所属形)  
 セレ sere 背負わせる【他】  
 センピリ senpir 陰【名】  
 ソ so ～しようかな【終助】  
 ソ so 滝【名】  
 ソ so 平面【名】  
 ソモ somo (否定の表現)【副】  
 ソンノ sonno 本当に【副】  
 ソンパ sonpa 蕎麦【名】  
 タ ta ～に、～で【格助】  
 タ ta 掘る、汲む【他】  
 タク tak かたまり【名】  
 タク tak 招く【他】  
 タヌ克蘭 tanukuran 今晚【名】  
 タネ tane 今【副】  
 タネポ tanepo 初めて【副】  
 タツカラ tapkar (男性の)踊り【名】  
 タブスツ tapsut 肩【名】  
 タブストウ tapsutu 肩【名】(タブスツ tapsut の所属形)  
 タマ tama 玉【名】  
 タラ tar 背負い縄【名】  
 タン tan この【連体】  
 タント tanto 今日【副】  
 チ ci 焼ける【自】  
 チ ci= (聞き手を含まない)私たち【人接】(他動詞につく形)  
 チアウンケ ciawunke 入る【自】  
 チェブ cep 魚【名】  
 チェブカブ cepkap 魚の皮【名】  
 チオカイ ciokay (聞き手を含まない)私たち【代名】  
 チカッポ cikappo 小鳥【名】  
 チカブ cikap 鳥【名】  
 チカブコイキブ cikapkoikiyip タカ【名】  
 チカブノク cikapnok 鳥の卵【名】  
 チキ ciki ～すると【接助】  
 チキリ cikir 足【名】  
 チキリ cikiri 足【名】(チキリ cikir の所属形)  
 チシ cis 泣く【自】  
 チシポ cispo 針入れ【名】  
 チセ cise 家【名】  
 チッ cip 舟【名】  
 チポロ cipor 筋子【名】  
 チマチエブ cimacep 焼き魚【名】  
 チャ ca 刈る【他】  
 チャビ capi 猫【名】  
 チャラ car 口【名】  
 チャラケ carke 鳴る【自】  
 チャロ caro 口【名】(チャラ car の所属形)  
 チュブ cup 月【名】  
 チライアパッポ ciray'apappo フクジュソウ【名】  
 チンケウ cinkew 根【名】  
 テ te ここ【名】  
 テイネ teyne 濡れる【自】  
 テイネシ teynesi 赤子【名】  
 テエタ teeta 昔【副】  
 テク tek ～して【接助】  
 テク tek 手【名】  
 テケ teke 手【名】(テク tek の所属形)  
 テッコトロ tekkotor 手のひら【名】  
 テッコトロ tekkotoro 手のひら【名】(テッコトロ tekkotor の所属形)  
 テマンタ temanta ここに【副】  
 ト to 湖【名】  
 ト to 日【名】  
 トイ toy 土【名】  
 トイタ toyta 畑を耕す【自】  
 トウ tu 二つの【連体】  
 トウアシカラブ tuaskarap 可愛がる【他】  
 トウアネネ tuanene あちらへ【副】  
 トウアン tuan あの【連体】  
 トウアンタ tuanta あそこに【副】  
 トウイエ tuye 切る【他】(トウイパ tuypa の単数形)

トウイタク tuytak 散文説話【名】  
 トウイパ tuypa 切る【他】(トウイエ tuyeの複数形)  
 トウイマノ tuymano 遠く【副】  
 トウキ tuki 杯【名】  
 トウシベツ tuspet 利別川(地名)【名】  
 トウツコ tutko 二日【名】  
 トウトウツ tutut ツツドリ【名】  
 トウナシ tunas 早い【自】  
 トウナシノ tunasno 早く【副】  
 トウナハカイ tunahkay トナカイ【名】  
 トウヌニタラ tununitara 響く【自】  
 トウブ tup 二つ、二個【名】  
 トウベサン tupesan 八つの【連体】  
 トウベブ tupep わな【名】  
 トウマシヌ tumasnu 体力がある【自】  
 トウム tum 中【名】  
 トウラ tura 連れる、伴う【他】  
 トウラシ turasi ～に沿って【格助】  
 トウラノ turano ～とともに【副】  
 トウリ turi 伸ばす【他】  
 トウレシ turesi (兄からみた)妹【名】  
 トウレブ turep ウバユリ【名】  
 トウン tun 二人【名】  
 トエトクシベ toetokuspe 藻琴山(地名)【名】  
 トオ too ずっと【副】  
 トクセ tokse 脈を打つ【自】  
 トケシ tokes 昼【副】  
 トノト tonoto 酒【名】  
 トッセ topse つばを吐く【自】  
 トベン topen 甘い【自】  
 トベンベ topenpe 甘いもの【名】  
 トム tom 中【名】  
 トラサンペ torasanpe マリモ【名】  
 トンチカマ toncikama 敷居【名】  
 ナ na ～だよ【終助】  
 ナ na まだ【副】  
 ナニ nani すぐに【副】  
 ナヌ nanu 顔【名】(ナン nanの所属形)  
 ナヌフ nanuhu 顔【名】(ナン nanの所属形)  
 ナン nan 顔【名】  
 ナンコロ nankor ～だろう【助動】  
 ニ ni 来【名】  
 ニカオフ nikaop 木の実【名】  
 ニサッタ nisatta 明日【副】  
 ニシ nis 空【名】  
 ニシパ nispa ニシパ(立派な人、裕福な人)【名】  
 ニス nisu 白【名】  
 ニスク nisuk 頼る【他】  
 ニタイ nitay 林【名】  
 ニテク nitek 木の枝【名】  
 ニヌム ninum クルミの実【名】  
 ヌ nu 聞く【他】  
 ヌイエ nuye 彫る、書く【他】  
 ヌイナ nuyna 隠す【他】  
 ヌイヌイセ nuynuyse クンクン啼く【名】  
 ヌカラ nukar 見る【他】  
 ヌサ nusa 幣柵【名】  
 ヌソ nuso 櫓【名】  
 ヌプリ nupuri 山【名】  
 ヌマン numan 昨日【副】  
 ヌミノカン numinokan ヤブマメ【名】  
 ヌム num 粒【名】  
 ヌレ nure 聞かせる【他】  
 ヌンパ nunpa 絞る【他】  
 ネ ne ～である【他動】  
 ネ ne ～として、～に【格助】  
 ネ ne その【連体】  
 ネ ne 何の【疑問】  
 ネア nea その【連体】(ネロク nerokの単数形)  
 ネイ ney どこ、いつ【疑問】  
 ネクス nekusu なぜ【疑問】  
 ネコン nekon どう【疑問】  
 ネッコノ nekkono ～のとおり【副】  
 ネネ nene どこへ【疑問】  
 ネッ nep 何【疑問】  
 ネロク nerok その【連体】(ネア neaの複数形)  
 ネワ newa ～と【副助】  
 ネン nen 誰【疑問】

ネンパッ nenpak いくつ【疑問】  
 ネンバラ nenpara いつ【疑問】  
 ノ no へして【接助】  
 ノイキ noyki 樽【名】  
 ノカ noka 形【名】  
 ノシキ noski 真中【名】  
 ノシケ noske 真中【名】  
 ノシパ nospa 追う【他】  
 ノタカミ notakami 頬【名】(ノタカム notakam の所属形)  
 ノタカム notakam 頬【名】  
 ノチウ nociw 星【名】  
 ノミ nomi 祈る【他】  
 ノンノ nonno 花【名】  
 パ pa 見つける【他】  
 パ pa 上手【名】  
 パ pa 年【名】  
 パイエ paye 行く【自】(オマン oman の複数形)  
 パイエカイ payekay 歩き回る【自】(オマナン omanan の複数形)  
 ハウ haw 声【名】  
 ハウエ hawe 声【名】(ハウ haw の所属形)  
 ハウエアシ haweas 声を出す【自】  
 ハウエアン hawean 言う【自】  
 パッ pak へまで【副】  
 パクノ pakno へまで【副】  
 パケ pake 頭【名】  
 パシクル paskur カラス【名】  
 ハチレ hacire 落とす【他】  
 パテク patek へばかり【副助】  
 ハニ hani へしなさい【終助】  
 ハポ hapo 母親【名】  
 パラウレ paraure 足(足首より下の部分)【名】  
 パルンペ parunpe 舌【名】  
 ハンカプイ hankapuy へそ【名】  
 ハンカプイエ hankapuye へそ【名】(ハンカプイ hankapuy の所属形)  
 ハンクカチュイ hankucacuy トンボ【名】  
 ハンパヤヤ hanpayaya カニ【名】  
 ヒ hi こと、とき、ところ【名】  
 ビサク pisakku 柄杓【名】  
 ビシケ piske 数える【他】  
 ピリカ pirka 良い【自】  
 ピリカイマキ pirkaimaki 良い歯【名】  
 ピリカノ pirkano 良く【副】  
 ピリカハウエ pirkahawe 良い声【名】  
 ヒンナ hinna ごちそうさま【間投】  
 フ hu 生である【自】  
 フ p もの【名】  
 ブクサ pukusa ギョウジャニンニク【名】  
 フシコ husko 古い【自】  
 フタタウエ hutatawe (驚きの表現)【間投】  
 フチ huci おばあさん【名】  
 フマシ humas 気配がする【完動】  
 フミ humi 音、気配【名】(フム hum の所属形)  
 フム hum 音、気配【名】  
 プリ puri 行い、振る舞い【名】  
 フレ hure 赤い【自】  
 フンパ hunpa 刻む【他】  
 フンペ hunpe クジラ【名】  
 ヘ he へか【終助】  
 ペ pe もの【名】  
 ベウレ pewre 若い【自】  
 ベカ peka へで、へに【格助】  
 ベカンベ pekanpe ヒシの実【名】  
 ベコアル pekoaru 牛乳【名】  
 ヘチラシパ heciraspa 咲く、開く【自】(ヘチラサ hecirasa の複数形)  
 ペッ pet 川【名】  
 ベレ pere 割る【他】(ペレパ perpa の単数形)  
 ベレパ perpa 割る【他】(ベレ pere の複数形)  
 ポ po 子供【名】  
 ポウタラ poutar 子供たち【名】  
 ポウタリ poutari 子供たち【名】(ポウタラ poutar の所属形)  
 ポカイ pokay へだけでも【副助】  
 ホッ hok 買う【他】  
 ポッ pok 下【名】  
 ホクレ hokure はやく【間投】

ポコン pokon ～するかのように【接助】  
 ホシ hos 脚絆【名】  
 ホシキ hoski 先である【自】  
 ホシキアンヌマン hoskiannuman おととい【副】  
 ホシキノ hoskino 先に【副】  
 ホッケ hokke 横になる【自】  
 ホニ honi 腹【名】(ホン hon の所属形)  
 ホニヒ honihi 腹【名】(ホン hon の所属形)  
 ポッ pop 沸く【自】  
 ポホ poho 子供【名】(ポ po の所属形)  
 ポロ poro 大きい【自】  
 ポロンノ poronno たくさん【副】  
 ポン pon 小さい【自】  
 ポントノ pontono 若殿【名】  
 ポンノ ponno 少し【副】  
 マ ma 泳ぐ【自】  
 マ ma 焼く【他】  
 マカ maka 開ける【他】  
 マカオ makao フキノトウ【名】  
 マキリ makiri 小刀【名】  
 マタキ matak (姉からみた) 妹【名】(マタツ matak の所属形)  
 マタツ matak (姉からみた) 妹【名】  
 マチヤ maciya 町【名】  
 ミ mi 着る【他】  
 ミケ mike 光る【自】  
 ミチ mici 父親【名】  
 ミナ mina 笑う【自】  
 ミヤンケ miyanke 土産【名】  
 ミレ mire 着させる【他】  
 ムックル mukkur 口琴【名】  
 ムンヌイエ munnuye ごみを掃く【自】  
 メアン mean 寒い【完動】  
 メク mek 鳴く【自】  
 メノイエ menoye 寒い【自】  
 メノコ menoko 女性【名】  
 モイモイエ moymoye 動かす【他】  
 モイレ moyre 遅い【自】  
 モコロ mokor 眠る【自】  
 モシマ mosma 別の【連体】  
 モシリ mosir 国土【名】  
 モム mom 流れる【自】  
 モユク moyuk タヌキ【名】  
 モンライケ monrayke 仕事をする【自】  
 ヤ ya ～か【終助】  
 ヤ ya 陸【名】  
 ヤイカタヌ yaykatanu かしこまる【自】  
 ヤイコシネカ yaykosineka 小便する【自】  
 ヤイツキマテッカ yaykimatekka あわてる【自】  
 ヤイトウパレ yaytupare 気をつける【自】  
 ヤイトウパレノ yaytupareno 気をつけて【副】  
 ヤイモナサツカ yaymonasapka 忙しい【自】  
 ヤイラムンノ yayramunno いつも【副】  
 ヤイレンカ yayrenka 喜ぶ【自】  
 ヤカ yaka 指差す【他】  
 ヤケ yake 岸【名】  
 ヤッカ yakka ～しても【接助】  
 ヤッ yap 上陸する【自】(ヤン yan の複数形)  
 ヤッテ yapte 上げる【他】(ヤンケ yanke の複数形)  
 ヤム yam 冷たい【自】  
 ヤヨモンヌレ yayomonnure 自分をほめる【自】  
 ヤラチツ yarcip 樹皮の舟【名】  
 ヤラベオロマ yarpeoromap 赤子【名】  
 ヤン yan ～しなさい【終助】  
 ヤン yan 上陸する【自】(ヤッ yap の単数形)  
 ヤンケ yanke 上げる【他】(ヤッテ yapte の単数形)  
 ユビ yupi 兄【名】(ユッ yup の所属形)  
 ユッ yup 兄【名】  
 ユッケ yupke 激しい【自】  
 ユブテク yuptek よく働く【自】  
 ユポ yupo 兄【名】  
 ラ ra 低いところ【名】  
 ライ ray 死ぬ【自】  
 ラウオチ rawoci 虹【名】  
 ラウラウ rawraw コウライテンナンショウ【名】  
 ラッチノ ratcino ゆっくりと【副】  
 ラッ rap 下る【自】(ラン ran の複数形)  
 ラム イエ ramu ye ねぎらう【他】



ラム ram 心【名】  
 ラム ramu 思う【他】  
 ラム ramu 心【名】(ラム ram の所属形)  
 ララ rar 眉【名】  
 ララバ rarapa なでる【他】  
 ラル raru 眉【名】(ララ rar の所属形)  
 ラン ran 下る【自】(ラッ rap の単数形)  
 ランヌマ rannuma まゆ【名】  
 ランマ ramma いつも【副】  
 リキッ rikip 上る【自】(リキン rikin の複数形)  
 リキン rikin 上る【自】(リキッ rikip の単数形)  
 リク rik 高いところ【名】  
 リムセ rimse 踊る【自】  
 ル ru (～する) こと【名】  
 ル ru 道【名】  
 ルアンペ ruanpe 雨【名】  
 ルイ ruy (雨や雪が) 降る、(風が) 吹く【自】  
 ルウエ ruwe (～する) こと【名】(ル ru の所属形)  
 ルス (イ) rusu (y) ～したい【助動】  
 ルプシ rupus 凍る【自】  
 ルッネウタラ rupneutar 大人たち【名】  
 ルッネウタリ rupneutari 大人たち【名】(ルッネウタラ  
 rupneutar の所属形)  
 ルルコロ rurkor 甘い【自】  
 レ re 三つの【連体】  
 レ re 名前【名】  
 レウ rew 止まる【自】  
 レキ reki ひげ【名】(レク rek の所属形)  
 レク rek ひげ【名】  
 レクチ rekuci 喉【名】(レクッ rekut の所属形)  
 レクチヒ rekucih 喉【名】(レクッ rekut の所属形)  
 レクッ rekut 喉【名】  
 レクテ rekte 鳴らす【他】  
 レクトウンベ rekutunpe 首飾り【名】  
 レシパ respa 育てる【他】(レス resu の複数形)  
 レス resu 育てる【他】(レシパ respa の単数形)  
 レタシケツ retaskep 山菜、和え物料理【名】  
 レタラ retar 白い【自】  
 レッ rep 三つ、三個【名】  
 レブンカムイ repunkamuy シャチ (沖の神)【名】  
 レラ rera 風【名】  
 レレコ rerko 三日【名】  
 レン ren 沈む【自】  
 ロ ro ～しよう【終助】  
 ロク rok ～した【助動】(ア a の単数形)  
 ロク rok ～しよう【終助】  
 ロク rok 座る【自】(ア a の単数形)  
 ロシキ roski 立つ【自】(アシ as の複数形)  
 ロシキ roski 立てる【他】(アシ asi の複数形)  
 ワ wa ～から【格助】  
 ワ wa ～して【接助】  
 ワ wa ～だよ【終助】  
 ワッカ wakka 水【名】  
 ワッカタ wakkata 水を汲む【自】  
 ワノ wano ～から【格助】  
 ワン wan 十の【連体】  
 ワンパ wanpa 十年【名】  
 ワンパハカ wanpahka 手袋【名】

中級アイヌ語　－美幌－

発行年月　2011年3月

発行　財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・7

TEL (011) 271-4171　FAX (011) 271-4181

URL <http://www.frpac.or.jp/>　E-mail: [ainu@frpac.or.jp](mailto:ainu@frpac.or.jp)